

### 第3章 対象事業実施区域及び その周辺の概況（地域特性）

## 第3章 対象事業実施区域及びその周辺の概況（地域特性）

対象事業実施区域及びその周辺の概況は、既存資料等により把握した。

その対象範囲は、対象事業実施区域が位置する津市美杉町下之川を中心とする地域を基本とした。

### 3.1 自然的状況

#### 3.1.1 気象、大気質、騒音、振動その他の大気に係る環境の状況

##### (1) 気象の状況

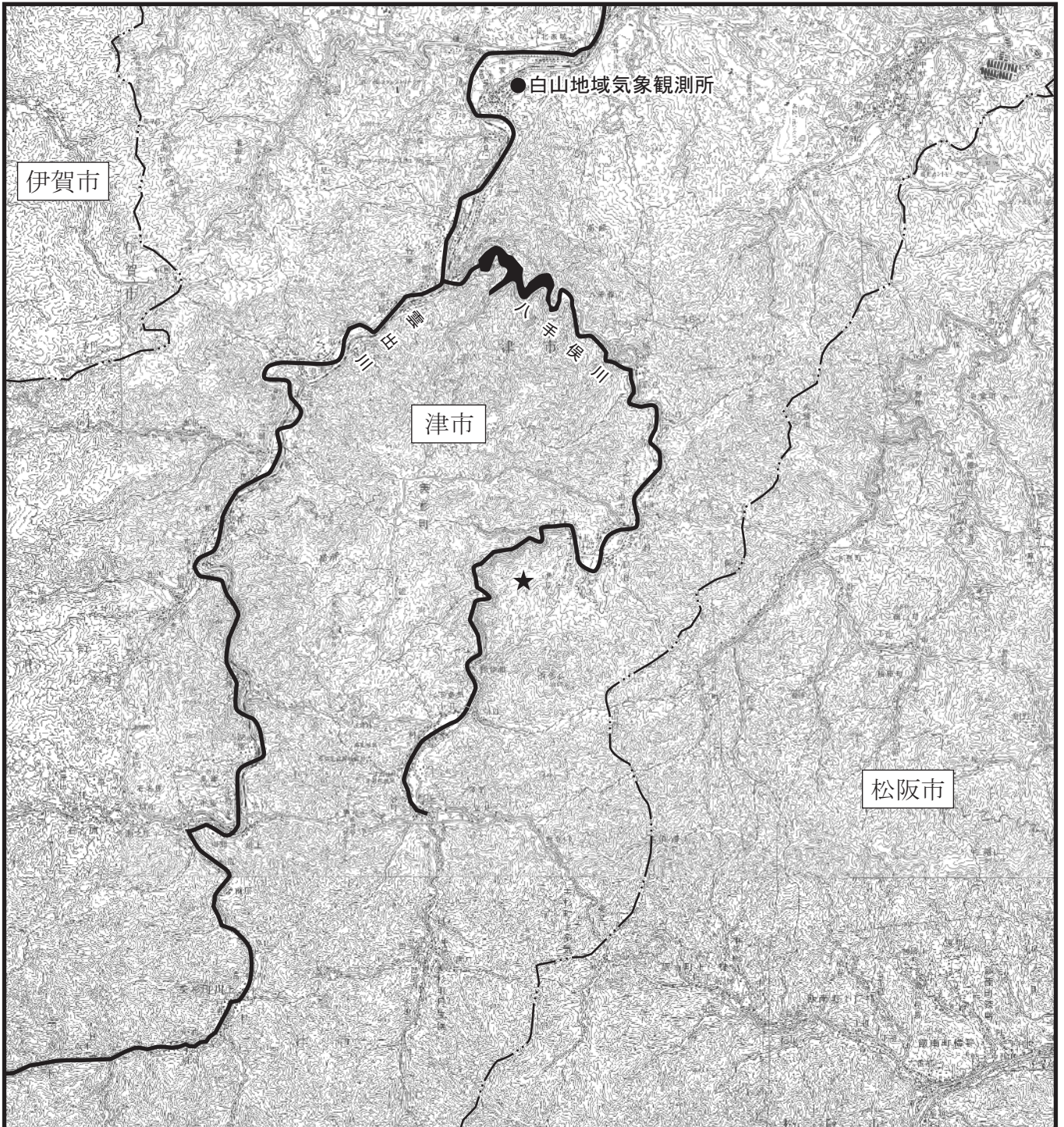
三重県の気候は、概ね温帯な太平洋側の気候型を示しているが、地形条件の複雑さを反映して地域的にはかなり変化しており、大きく5地区（鈴鹿山脈北部地区、伊勢平野地区、伊賀盆地地区、熊野灘沿岸地区、志摩地区）に区分することができる。対象事業実施区域が位置する伊賀盆地地区は、内陸的な特性を持ち、寒暑の差がやや大きい。

対象事業実施区域の周辺には、「白山地域気象観測所」、「笠取山観測所」及び「粥見観測所」などの気象観測所があり、対象事業実施区域からの距離は、「白山地域気象観測所」で約8km、「笠取山観測所」で約12km、「粥見観測所」で約20km離れている。

対象事業実施区域の最寄りの観測所である「白山地域気象観測所」の位置を図3.1-1に、各気象観測所の気温、降水量等の平年値を、表3.1-1～2及び図3.1-2～3に示す。

気象観測結果（平年値：統計期間1999年～2008年、資料年数10年）によると、白山地域気象観測所における全年降水量は1,677.7mm（年間値）、笠取山観測所における全年降水量は1,999.0mm（年間値）であり、粥見観測所の年間における平均気温は15.0℃、全年降水量は2,043.1mm（年間値）、平均風速は1.4m/sである。

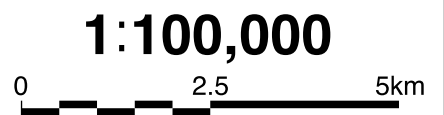




凡 例

- ★ : 対象事業実施区域
- · — : 市 界
- ~~~~~ : 河 川

図3.1-1 対象事業実施区域周辺の  
気象観測所位置



出典：「気象観測（電子閲覧室）」（気象庁ホームページ）

表 3.1-1 1999 年～2008 年の降水量（平年値）

月	白山地域 (mm)	笠取山 (mm)
1 月	57.1	43.0
2 月	60.8	58.1
3 月	95.9	94.0
4 月	114.9	156.3
5 月	179.6	253.8
6 月	193.6	271.5
7 月	161.3	214.7
8 月	188.4	256.2
9 月	324.9	308.6
10 月	170.7	198.3
11 月	76.0	91.9
12 月	54.7	50.1
年間値	1,677.7	1,999.0

出典：「気象観測（電子閲覧室）」（気象庁ホームページ）

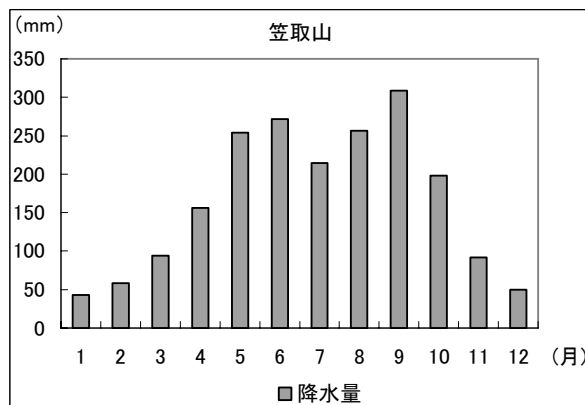
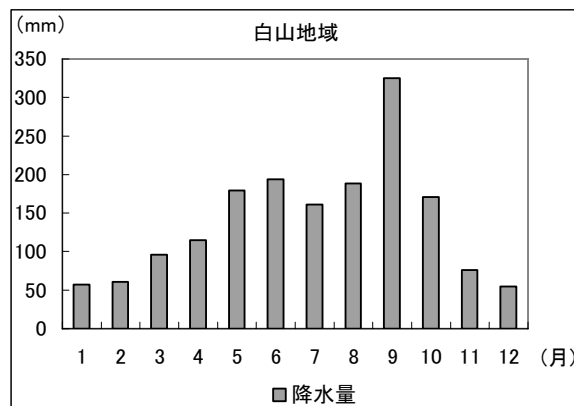


図 3.1-2 月別の平均降水量

出典：「気象観測（電子閲覧室）」（気象庁ホームページ）



表 3.1-2 1999 年～2008 年の気温、降水量等（平年値）

<粥 見>

月	気温平均（℃）			日照時間 (h)	降水量 (mm)	平均風速 (m/s)	最多風向 (16 方位)
	日平均	日最高	日最低				
1 月	4.3	9.0	0.0	124.5	63.2	1.7	西、西北西
2 月	4.8	10.1	-0.1	126.2	61.9	1.6	西北西
3 月	8.0	13.8	2.3	163.2	105.9	1.7	西北西
4 月	13.3	19.6	7.3	166.1	133.4	1.6	西、西北西
5 月	18.0	23.6	12.8	136.8	190.5	1.3	西北西
6 月	21.8	26.8	17.5	87.9	207.6	1.1	西北西
7 月	25.5	30.6	21.5	110.9	193.1	1.2	西北西
8 月	26.1	31.4	22.2	141.8	295.5	1.1	南
9 月	23.1	28.0	19.5	123.1	425.7	1.1	西北西、北西
10 月	17.2	22.2	12.8	134.2	217.1	1.1	西北西
11 月	11.4	17.0	6.5	134.6	88.5	1.2	西
12 月	6.3	11.6	1.4	140.0	60.9	1.6	西
年間値	15.0	20.3	10.3	132.4	2,043.1	1.4	西北西

出典：「気象観測（電子閲覧室）」（気象庁ホームページ）

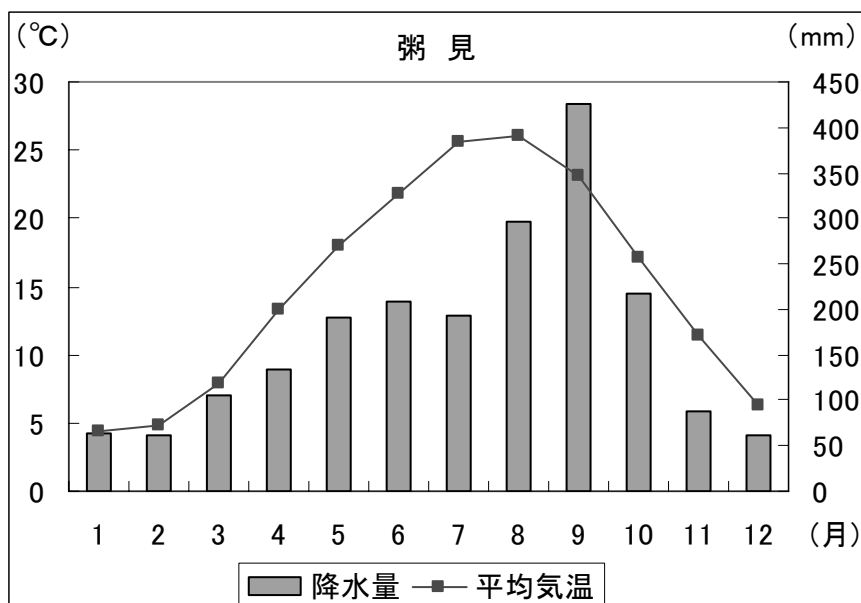


図 3.1-3 月別の平均気温と平均降水量（粥見）

出典：「気象観測（電子閲覧室）」（気象庁ホームページ）

## (2) 大気質

### 1) 大気環境の状況

三重県内では、大気汚染常時監視測定局として一般環境測定局は28局、自動車排出ガス測定局は7局設置されている。また、市内24地点において二酸化窒素及び硫黄酸化物の簡易測定が、市内11地点においてダイオキシン類の測定が行われている。

対象事業実施区域周辺における大気汚染常時監視測定局及び大気環境測定地点を表3.1-3に示す。

対象事業実施区域周辺に三重県設置の大気汚染常時監視測定局はなく、最も近い三重県設置の大気汚染常時監視測定局である名張小学校は、対象事業実施区域の西北西約20kmに位置する。また、対象事業実施区域に最も近い三重県設置のダイオキシン類測定地点は、伊賀市役所であり、対象事業実施区域の北西約30kmに位置する。

対象事業実施区域周辺における本市設置の大気環境測定地点を図3.1-4に示す。

対象事業実施区域周辺の本市設置の大気環境測定地点は、「美杉総合支所」であり、対象事業実施区域の西北西約5kmに位置する。

表 3.1-3(1) 対象事業実施区域周辺の大気汚染常時監視測定局（三重県設置）  
及び測定項目（平成19年度）

番号	測定局名	所在地	風向・風速	二酸化硫黄	硫黄酸化物	二酸化窒素	浮遊粒子状物質	光化学オゾン	ダイオキシン類	対象事業実施区域からの方角・距離
1	津西が丘小学校	津市	○	○	—	○	○	○	—	北東 約25km
2	久居立成小学校	津市	○	○	—	○	○	○	—	北東 約20km
3	名張小学校	名張市	○	○	—	○	○	○	—	西北西 約20km
4	伊賀市役所	伊賀市	—	—	—	—	—	—	○	北西 約30km

出典：「平成20年版 三重県環境白書」（平成21年3月 三重県）

注) ○：測定項目

表 3.1-3(2) 対象事業実施区域周辺の大気環境測定地点（本市設置）及び測定項目

番号	測定局名	所在地	風向・風速	二酸化硫黄	硫黄酸化物	二酸化窒素	浮遊粒子状物質	光化学オゾン	ダイオキシン類	対象事業実施区域からの方角・距離
5	美杉総合支所	津市	—	—	○	◎	—	—	◎	西北西 約5km
6	白山総合支所	津市	—	—	○	◎	—	—	◎	北東 約10km
7	一志総合支所	津市	—	—	○	◎	—	—	◎	北東 約15km

出典：「津市環境調査結果 平成19～20年度調査結果」（津市ホームページ）

注) ◎：平成19年度及び平成20年度測定項目、○：平成19年度測定項目



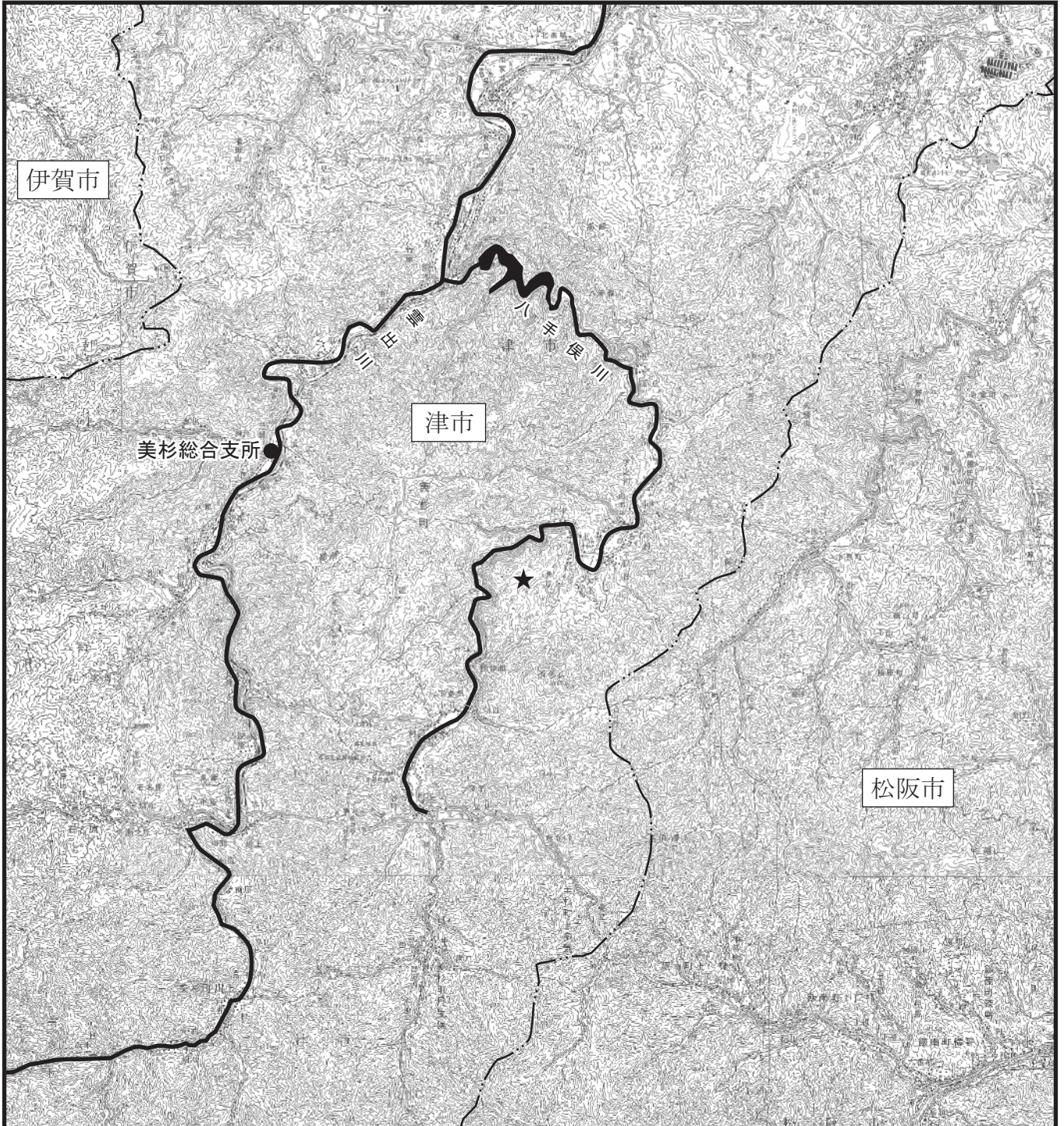
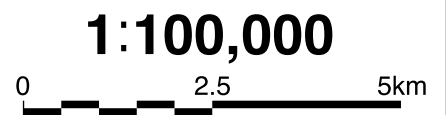


図3.1-4 対象事業実施区域周辺の  
大気環境測定地点

凡 例

- ★ : 対象事業実施区域      ● : 大気汚染環境測定地点
- : 市 界
- ~~~~ : 河 川



出典：「津市環境調査結果 平成20年度調査結果」（津市ホームページ）



平成19～20年度の二酸化硫黄、硫黄酸化物、二酸化窒素、浮遊粒子状物質、光化学オキシダント及びダイオキシン類の測定結果を表3.1-4(1)～(8)に、風配図を図3.1-5に示す。本市では、硫黄酸化物及び二酸化窒素の簡易測定がおこなわれている。本市測定の二酸化窒素濃度は、TEAプレート法<sup>\*</sup>を用いて測定されており、統計式を用いて、ザルツマン法によるNO<sub>2</sub>濃度（ppm）に換算した。

いずれの測定局においても、二酸化硫黄、二酸化窒素及びダイオキシン類は環境基準を達成しているが、浮遊粒子状物質及び光化学オキシダントは環境基準を超過している。

また、対象事業実施区域に最も近い美杉総合支所の二酸化窒素及びダイオキシン類の濃度は、他の測定局と比べて低い値となっている。

表 3.1-4(1) 二酸化硫黄の環境基準達成状況（平成19年度）

番号	測定局名	年平均値 (ppm)	環境基準との比較				1時間値 の最高値 (ppm)	日平均値の 2%除外値 (ppm)	日平均値が 0.04ppmを 超えた日が 2日以上 連続した ことの有無
			1時間値が 0.1ppmを 超えた時間数 とその割合		日平均値が 0.04ppmを 超えた日数と その割合				
			時間	(%)	時間	(%)			
1	津西が丘小学校	0.004	0	0	0	0	0.021	0.008	無
2	久居立成小学校	0.005	0	0	0	0	0.031	0.009	無
3	名張小学校	0.003	0	0	0	0	0.017	0.006	無

出典：「平成20年版 三重県環境白書」（平成21年3月 三重県）

表 3.1-4(2) 二酸化窒素の環境基準達成状況（平成19年度）

番号	測定局名	年平均値 (ppm)	環境基準との比較				1時間値 の最高値 (ppm)	日平均値 の年間 98%値 (ppm)
			日平均値が 0.06ppmを 超えた日数と その割合		日平均値が 0.04ppm以上 0.06ppm以下 の日数と その割合			
			日数	(%)	日数	(%)		
1	津西が丘小学校	0.009	0	0	0	0	0.053	0.021
2	久居立成小学校	0.009	0	0	0	0	0.055	0.022
3	名張小学校	0.012	0	0	0	0	0.051	0.024
5	美杉総合支所	0.004 <sup>注)</sup>	—	—	—	—	—	—

出典：「平成20年版 三重県環境白書」（平成21年3月 三重県）

「津市環境調査結果 平成19調査結果」（津市ホームページ）

注) TEAプレート法で得られた測定値を、以下の回帰式（三重県）を用いて算出した値である。

$$Y = 0.344X + 0.621$$

(Y：ザルツマン法によるNO<sub>2</sub>濃度（ppb）、X：TEAプレート法によるNO<sub>2</sub>濃度（μg/100cm<sup>2</sup>/day）)

※TEAプレート法

トリエタノールとガラスビーズを混合したものをシャーレに保存し、1カ月間大気中に曝露し、捕集された硫黄酸化物、二酸化窒素を定量する方法。



表 3.1-4(3) 浮遊粒子状物質の環境基準達成状況（平成 19 年度）

番号	測定局名	年平均値 (mg/m <sup>3</sup> )	環境基準との比較				1 時間値の 最高値 (mg/m <sup>3</sup> )	日平均値の 2%除外値 (mg/m <sup>3</sup> )	
			1 時間値が 0.20mg/m <sup>3</sup> を 超えた時間数 とその割合		日平均値が 0.10mg/m <sup>3</sup> を 超えた日数 とその割合				日平均値が 0.10mg/m <sup>3</sup> を 超えた日が 2 日以上連続 したことの 有無
			日数	(%)	日数	(%)			
1	津西が丘小学校	0.025	14	0.2	2	0.5	無	0.270	0.065
2	久居立成小学校	0.026	21	0.2	3	0.8	無	0.306	0.080
3	名張小学校	0.020	7	0.1	1	0.3	無	0.238	0.060

出典：「平成20年版 三重県環境白書」（平成21年3月 三重県）

表 3.1-4(4) 光化学オキシダントの環境基準達成状況（平成 19 年度）

番号	測定局名	昼間の 1 時間 値の年平均値 (ppm)	環境基準との比較		昼間の 1 時間値が 注意報発令レベルであ る 0.12~0.40ppm の 日数と時間数		昼間の 1 時間値 の最高値 (ppm)	昼間の 日最高 1 時間値の 年平均値 (ppm)
			昼間の 1 時間値が 0.06ppm を超えた 日数と時間数		日	時間		
			日	時間				
1	津西が丘小学校	0.037	124	655	1	2	0.132	0.052
2	久居立成小学校	0.032	65	289	0	0	0.106	0.046
3	名張小学校	0.033	83	454	0	0	0.109	0.049

出典：「平成20年版 三重県環境白書」（平成21年3月 三重県）

表 3.1-4(5) ダイオキシン類の環境基準達成状況（平成19年度）

単位：pg - TEQ/m<sup>3</sup>

番号	調査地点	環境基準との比較 0.6 pg - TEQ/m <sup>3</sup> 超過の有無	平成19年度				
			平均値	春季	夏季	秋季	冬季
4	伊賀市役所	無	0.028	0.019	0.022	0.044	0.027
5	美杉総合支所	無	—	—	0.014 <sup>注)</sup>		—
6	白山総合支所	無	—	—	0.021 <sup>注)</sup>		—
7	一志総合支所	無	—	—	0.020 <sup>注)</sup>		—

注) 試料の採取日：平成19年8月27日～9月3日

出典：「平成20年版 三重県環境白書」（平成21年3月 三重県）

「津市環境調査結果 平成19年度調査結果」（津市ホームページ）

表 3.1-4(6) ダイオキシン類の環境基準達成状況（平成20年度）

単位：pg - TEQ/m<sup>3</sup>

番号	調査地点	環境基準との比較 0.6 pg - TEQ/m <sup>3</sup> 超過の有無	平成20年度			
			春季	夏季	秋季	冬季
5	美杉総合支所	無	—	0.013	—	—
6	白山総合支所	無	—	0.015	—	—
7	一志総合支所	無	—	0.056	—	—

出典：「津市環境調査結果 平成20年度調査結果」（津市ホームページ）

表 3.1-4 (7) 本市測定のスルファ酸化物経時変化 (平成 19 年度) (PbO<sub>2</sub>法※)

単位：SO<sub>3</sub>mg/日/100cm<sup>2</sup>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均
一志 総合支所	0.01 未満	0.10	0.01	0.02	0.01	0.03	0.02	0.01 未満	0.01 未満	0.05	0.03	0.03	0.03
白山 総合支所	0.01 未満	0.09	0.01 未満	0.03	0.01 未満	0.04	0.02	0.01 未満	0.01 未満	0.03	0.03	0.04	0.03
美杉 総合支所	0.01 未満	0.10	0.01 未満	0.02	0.01 未満	0.04	0.02	0.02	0.01	0.01 未満	0.06	0.02	0.03

注) 平成20年度は、測定されていない。

出典：「津市環境調査結果 平成19年度調査結果」(津市ホームページ)

表 3.1-4 (8) 本市測定のスルファ酸化物経時変化 (平成 20 年度)

単位 上段：μg/100cm<sup>2</sup>/day  
下段：ppm<sup>注)</sup>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均
一志 総合支所	14.5	21.1	22.1	17.6	22.9	27.8	32.4	33	20.8	23.8	14.8	19.6	22.5
	0.006	0.008	0.008	0.007	0.008	0.010	0.012	0.012	0.008	0.009	0.006	0.007	0.008
白山 総合支所	8.9	10	12.3	12.1	14.6	18.6	23.5	23	15.1	12.7	8.6	7.9	13.9
	0.004	0.004	0.005	0.005	0.006	0.007	0.009	0.009	0.006	0.005	0.004	0.003	0.005
美杉 総合支所	4.7	5	4.8	5.4	5.5	7.2	10.5	15.2	8	8.5	12	7.3	7.8
	0.002	0.002	0.002	0.002	0.003	0.003	0.004	0.006	0.003	0.004	0.005	0.003	0.003

注) TEAプレート法で得られた測定値を、以下の回帰式(三重県)を用いて算出した値である。

$$Y = 0.344X + 0.621$$

(Y：ザルツマン法によるNO<sub>2</sub>濃度(ppb)、X：TEAプレート法によるNO<sub>2</sub>濃度(μg/100cm<sup>2</sup>/day))

出典：「津市環境調査結果 平成20年度調査結果」(津市ホームページ)

※PbO<sub>2</sub>法

円筒に二酸化鉛を塗布した布を巻きつけ、これをシェルターに入れて通常1カ月間大気中に静置しておき、硫酸鉛として固定されたスルファ酸化物を定量する方法。



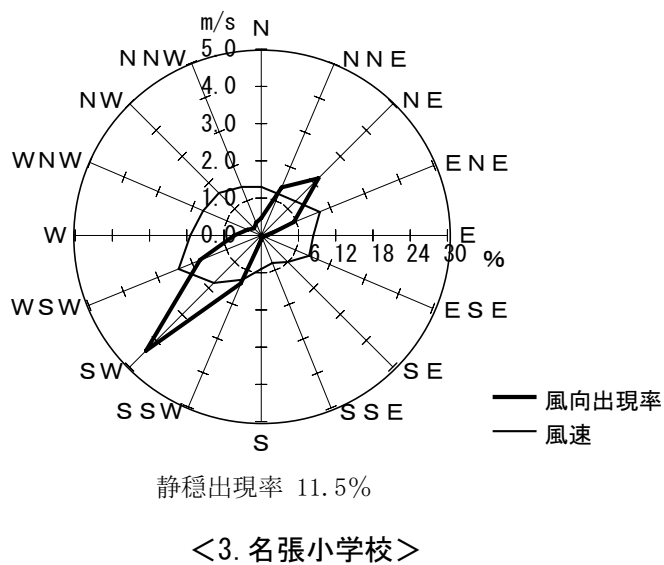
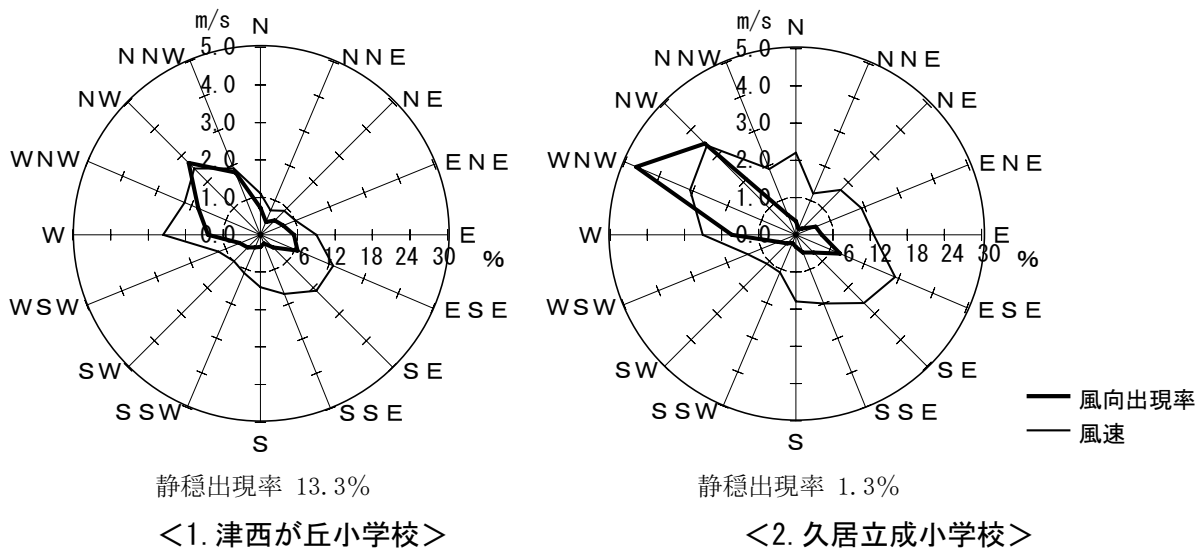


図 3.1-5 気象観測所の風向・風速（風配図）

出典：「平成19年度 大気汚染常時監視測定結果」（三重県ホームページ）

## 2) 苦情等の状況

「平成20年版 三重県環境白書」（平成21年3月 三重県）によれば、平成18年度の大気汚染に関する苦情は、本市で96件報告されている。

### (3) 騒音

#### 1) 騒音の状況

三重県内では、平成19年度に環境騒音の測定を88地点、自動車交通騒音の測定を27地点で実施している。

平成19年度に市内で測定された環境騒音及び自動車交通騒音の測定地点のうち、対象事業実施区域から約25km以内の地点における測定結果を、表3.1-5～6に示す。

環境騒音、自動車交通騒音は、いずれの地点も環境基準を達成している。

ただし、いずれの調査地点も対象事業実施区域から15km以上離れており、対象事業実施区域近傍の騒音の状況は不明である。

表 3.1-5 環境騒音測定結果（平成19年度）

番号	地域 類型	用途地域	調査場所	対象事業 実施区域 からの 方角・距離	等価騒音レベル (昼間)			等価騒音レベル (夜間)		
					L <sub>Aeq</sub> (dB)	環境基準		L <sub>Aeq</sub> (dB)	環境基準	
						基準値 (dB)	適合 状況		基準値 (dB)	適合 状況
1	A	第1種低層 住居専用地域	津市洪見町 630-64 つつじが丘東公園内	北東 約 25km	47	55	○	40	45	○
2	B	第1種住居地域	津市香良洲町 2214-2 香良洲総合支所職員駐車場	北東 約 20km	51	55	○	41	45	○
3	C	近隣商業地域	津市久居東鷹跡 246 久居総合支所	北東 約 20km	55	60	○	46	50	○
4	C	準工業地域	津市南丸之内 5 番地 三番町公園	北東 約 25km	49	60	○	46	50	○

注1) ○印は騒音に係る環境基準に適合していることを示す。

注2) 昼間：午前6時から午後10時まで、夜間：午後10時から翌日午前6時まで

出典：「平成20年版 三重県環境白書」（平成21年3月 三重県）

表 3.1-6 自動車交通騒音測定結果（平成 19 年度）

番号	道路名	地域 類型	調査場所	車線 数	対象事業 実施区域 からの 方角・距離	等価騒音 レベル $L_{Aeq}$ (dB)	環境基準		要請限度	
							基準値	適合 状況	基準値	適合 状況
							(dB)		(dB)	
1	松阪久居線	C	津市 久居新町	2	北東 約 20km	68	70	○	75	○
						61	65	○	70	○
2	津三雲線	B	雲津本郷町 1388-1	2	北東 約 20km	65	70	○	75	○
						56	65	○	70	○
3	津海岸線	C	津市 大門 26	4	北東 約 25km	66	70	○	75	○
						62	65	○	70	○
4	家所阿漕停車場線	B	津市 半田 425	2	北東 約 20km	69	70	○	75	○
						62	65	○	70	○

注) 騒音レベルの時間区分は、上段が昼間（午前 6 時～午後 10 時まで）、下段が夜間（午後 10 時～翌日午前 6 時）である。  
出典：「平成 20 年版 三重県環境白書」（平成 21 年 3 月 三重県）

## 2) 苦情等の状況

「平成 20 年版 三重県環境白書」（平成 21 年 3 月 三重県）によれば、平成 18 年度の騒音に関する苦情は、本市で 51 件報告されている。



#### (4) 振動

##### 1) 振動の状況

三重県内では、平成19年度に自動車交通振動の測定を36地点で実施している。

平成19年度に市内で測定された自動車交通振動の測定地点のうち、対象事業実施区域から25km以内の地点における測定結果を表3.1-7に示す。

自動車交通振動について全地点で要請限度に適合している。

ただし、いずれの調査地点も対象事業実施区域から15km以上離れており、対象事業実施区域近傍の振動の状況は不明である。

表 3.1-7 市内の自動車交通振動測定結果（平成19年度）

番号	道路名	用途地域	調査場所	対象事業 実施区域 からの 方角・距離	振動レベル (昼間)			振動レベル (夜間)		
					(dB)	要請限度		(dB)	要請限度	
						規制値 (dB)	適合 状況		規制値 (dB)	適合 状況
1	国道165号線	商業地域	津市 ジャスコ久居店前	北東 約20km	48	65	○	42	60	○
2	市道	第一種 住居地域	津市 三重町バス停前	北東 約25km	41	60	○	40	55	○

注) 昼間：午前8時から午後7時まで、夜間：午後7時から翌日午前8時まで

出典：「平成20年版 三重県環境白書」（平成21年3月 三重県）

##### 2) 苦情等の状況

「平成20年版 三重県環境白書」（平成21年3月 三重県）によれば、平成18年度の振動に関する苦情は、本市で1件報告されている。

## (5) その他の大気に係る環境の状況

### 1) 悪臭の状況

悪臭防止法では、住民の生活環境を保全すべき地域を指定し、その地域内において、工場その他の事業場における事業活動に伴って発生する悪臭について規制を行っており、本市は、生活環境を保全すべき地域の特定悪臭物質の規制地域となっている。

なお、対象事業実施区域周辺では、悪臭の測定は行われていない。

### 2) 苦情等の状況

「平成20年版 三重県環境白書」(平成21年3月 三重県)によれば、平成18年度の悪臭に関する苦情は、本市で43件報告されている。

### 3.1.2 水象、水質、水底の底質その他の水に係る環境の状況

#### (1) 水象

対象事業実施区域の周辺では、対象事業実施区域内を流れる沢も合流する八手俣川が流れており、君ヶ野ダムを経て雲出川に合流する。

雲出川は、伊勢平野にでて長野川、波瀬川及び中村川が合流し、河口近くで雲出古川を分派して伊勢湾に注ぐ一級河川である。

#### (2) 水質

##### 1) 水質の状況

三重県内では、国土交通省及び三重県、本市等によって、河川の水質調査が実施されている。対象事業実施区域の周辺の河川水質調査地点を図 3.1-6 に、雲出川の平成 19 年度の測定結果を表 3.1-8(1)に、八手俣川の平成 16 年～18 年度の測定結果を表 3.1-8(2)に示す。

「生活環境の保全に関する環境基準（河川）」において雲出川上流で AA 類型、雲出川下流で A 類型に設定されている。八手俣川は、環境基準の類型の指定はされていない。

河川に係る有機汚濁の代表的な指標である BOD75%値でみると、雲出川両国橋で 0.7mg/L、雲出川大仰橋で 0.8mg/L であり、いずれの地点も環境基準（AA 類型：1mg/L、A 類型：2mg/L）を達成している。八手俣川においては、平成 17 年度では山口橋で 1.4mg/L、平成 18 年度ではめがね橋で 1.1mg/L、御所橋で 1.3mg/L、山口橋で 1.1mg/L である。

また、両国橋では、河川水質のダイオキシン類の調査が実施されており、平成 19 年度は 0.069pg-TEQ/L と、環境基準（1 pg-TEQ/L 以下）を達成している（「平成 19 年度 公共用水域及び地下水の水質測定結果」（平成 20 年 12 月、三重県環境森林部）より）。



表 3.1-8(1) 平成 19 年度水質調査結果

単位：DO、BOD、SS：mg/L、大腸菌群数：MPN/100mL

河川名	類域 指定 水域名	測定 地点	測定 機関	類型	測定結果					環境 基準
					項目	平均値	範囲	75%値	適合率 (%)	
雲出川	雲出川 上流	両国橋	三重県	AA	pH	7.9	7.3~8.5		100(100)	6.5以上 8.5以下
					DO	10.0	7.8~12.0		100(100)	7.5mg/L 以上
					BOD	0.6	<0.5~0.9	0.7	100(92)	1mg/L 以下
					SS	1	<1~1		100(100)	25mg/L 以下
					大腸菌群数	$4.1 \times 10^3$	$4.9 \times 10^2$ ~ $2.4 \times 10^4$		17(-)	50MPN/ 100mL以下
雲出川 下流	大仰橋	国土 交通省 中部 地方 整備局	(A)	pH	8.1	7.3~9.1		83(83)	6.5以上 8.5以下	
				DO	11.0	9~13		100(100)	7.5mg/L 以上	
				BOD	0.7	<0.5~1.2	0.8	100(100)	2mg/L 以下	
				SS	3	1~9		100(100)	25mg/L 以下	
				大腸菌群数	$1.7 \times 10^4$	$7.0 \times 10^2$ ~ $7.0 \times 10^4$		17(25)	1000MPN/ 100mL以下	

注1) 適合率 (%) = (環境基準に適合した検体数/総検体数) × 100

注2) 適合率欄の括弧内は前年度の数値を示す。

注3) 類型欄の ( ) 書きは、環境基準指定水域内の基準点以外の測定点であることを意味する。(補足地点)

注4) 「<」は、測定下限値未満の値を意味する。

出典：「平成20年版 三重県環境白書」(平成21年3月 三重県)

表 3.1-8(2) 河川の水質調査結果

河川名	測定地点	測定機関	年度	pH	BOD (mg/L)	SS (mg/L)	DO (mg/L)	大腸菌群数 (MPN/100mL)
八手俣川	めがね橋	津市	平成 16 年	7.7	0.5 未満	—	10.8	$4.8 \times 10^2$
			平成 17 年	8.3	0.9	—	10.4	$4.9 \times 10^2$
			平成 18 年	8.1	1.1	—	11	$3.6 \times 10^2$
	御所橋		平成 16 年	7.6	0.6 未満	—	10.8	$4.5 \times 10^2$
			平成 17 年	8.0	1.0	—	9.8	$3.3 \times 10^2$
			平成 18 年	7.8	1.3	—	9.9	$6.6 \times 10^2$
	山口橋		平成 16 年	7.8	0.6 未満	—	11.1	$9.6 \times 10^2$
			平成 17 年	8.5	1.4	—	9.6	$9.0 \times 10^2$
			平成 18 年	8.1	1.1	—	9.9	$4.6 \times 10^2$
環境基準（類型指定なし）				—	—	—	—	—

注1) 各項目の数値は、当該年度における測定結果の平均値

注2) 測定回数は場所によって異なる。

注3) 平成19年度以降は測定されていない。

出典：「平成18年度 津市統計書」（津市）

「津市環境調査結果 水質（河川） 平成18年度調査結果」（津市ホームページ）

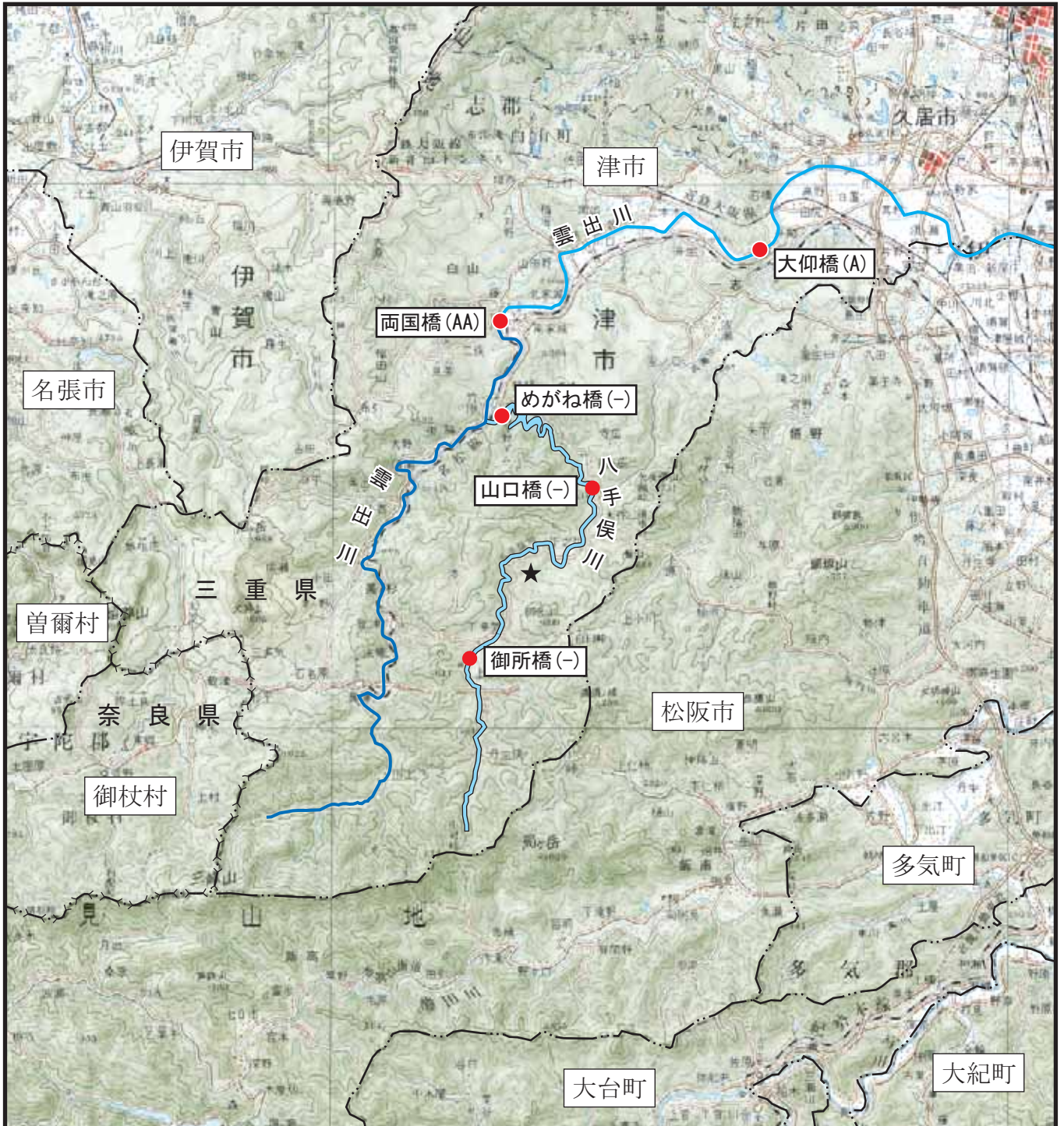


図3.1-6 対象事業実施区域周辺の  
水質調査地点

凡 例

★ : 対象事業実施区域      ● : 水質調査地点(類型指定)

—>—>— : 県 界

— · · — : 市 界

河 川

—— : AA類型

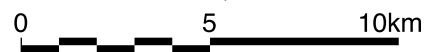
—— : A類型

—— : 類型指定なし

注) 大仰橋は環境基準指定水域内の基準点以外の測定点(補足地点)である。  
 出典: 「平成20年版 三重県環境白書」(平成21年3月、三重県)  
 「津市環境調査 水質(河川) 平成18年度~20年度調査結果」  
 (津市ホームページ)



1:200,000



## 2) 主要発生源の状況

水質汚濁防止法では、同法第2条に定める特定施設を設置する工場・事業場（特定事業場）から公共用水域に排出される排水のうち、日平均総排出水量が50m<sup>3</sup>/日以上または有害物質を含むものに対して、全国一律の排水基準が設定されている。その水質汚濁防止法に基づく特定事業場数を表3.1-9に示す。

なお、特定施設に対象事業である一般廃棄物の最終処分場は含まれない。

表 3.1-9 事業所一覧

	畜産農業	食料品製造業	繊維工業	木材・木製品製造業	紙加工品製造業 パルプ・紙・	化学工業	石油精製業	ゴム製品製造業	窯業	砕石・砂利採取業	鉄鋼業	金属機械製造業・ 金属等表面処理業
津地方	1(1) 65	7 147	2(1) 6(1)	2		3 1		4 2	1 19	8		15(9) 10(1)
三重県	4(1) 481	58 942	9(1) 42(1)	46(1)	2	18(4) 19(4)	1	7(1) 7	14(3) 187(6)	5 71	1 15	61(34) 161(29)
計	485(1)	1,000	51(2)	46(1)	2	37(8)	1	14(1)	201(9)	76	16	222(63)

	水道浄化施設	旅館業	飲食店業	洗濯業	新聞・印刷業・ 写真現像業	病院	自動式車両洗浄施設	試験研究機関	ごみ焼却場	下水道終末処理施設・ し尿処理施設	その他	計
津地方	3 1	12 134	7 21	1 93(5)	38(1)	2 2		2(2) 15(5)	2	124(4) 126(1)	1(1) 12	185(18) 829(14)
三重県	7 8	117 2,446	47 85	11 521(24)	271(1)	11 7	1 712	10(9) 62(36)	32(1)	525(5) 538(2)	10(3) 37(13)	919(61) 6,690(118)
計	15	2,563	132	532(24)	271(1)	18	713	72(45)	32(1)	1,063(7)	47(16)	7,609(179)

注) 上段は50m<sup>3</sup>/日以上、下段は50m<sup>3</sup>/日未満、( ) は内数で有害事業場分  
出典：「平成20年版 三重県環境白書」(平成21年3月 三重県)

## 3) 苦情等の状況

「平成20年版 三重県環境白書」(平成21年3月 三重県)によれば、平成18年度の水質汚濁に関する苦情は、本市で19件報告されている。

### (3) その他の水に係る環境の状況

#### 1) 地下水

本市内では、過去に地下水汚染が確認された地点で定期モニタリング調査が実施されているが、いずれの調査地点も対象事業実施区域から10km以上離れており、対象事業実施区域近傍の地下水の水質の状況は不明である。

また、三重県では、県内4地点において、地下水のダイオキシン類調査が行われているが、対象事業実施区域に最も近い測定地点（伊賀市上野伊予町）で、30km程度離れており、対象事業実施区域近傍の地下水のダイオキシン類の状況は不明である。

### 3.1.3 地盤及び土壌の状況

#### (1) 土壌の状況

##### 1) 森林土壌等の状況

「土地分類基本調査」による周辺の土壌図を図3.1-7に示す。

対象事業実施区域を含む高所山～雨乞山一帯は、一部谷部で未熟土壌や中粗流灰色低地土壌・灰褐系が分布するが、主に乾性褐色森林土及び褐色森林土が分布する地域である。

##### 2) 土壌汚染の状況

本市では、平成20年度に土壌のダイオキシン類調査を市内2地点で実施しているが、いずれの調査地点も対象事業実施区域から10km以上離れており、対象事業実施区域近傍の土壌中ダイオキシン類の状況は不明である。

##### 3) 苦情等の状況

「平成20年版 三重県環境白書」（平成21年3月 三重県）によれば、平成18年度の土壌汚染に関する苦情は、本市で報告されていない。



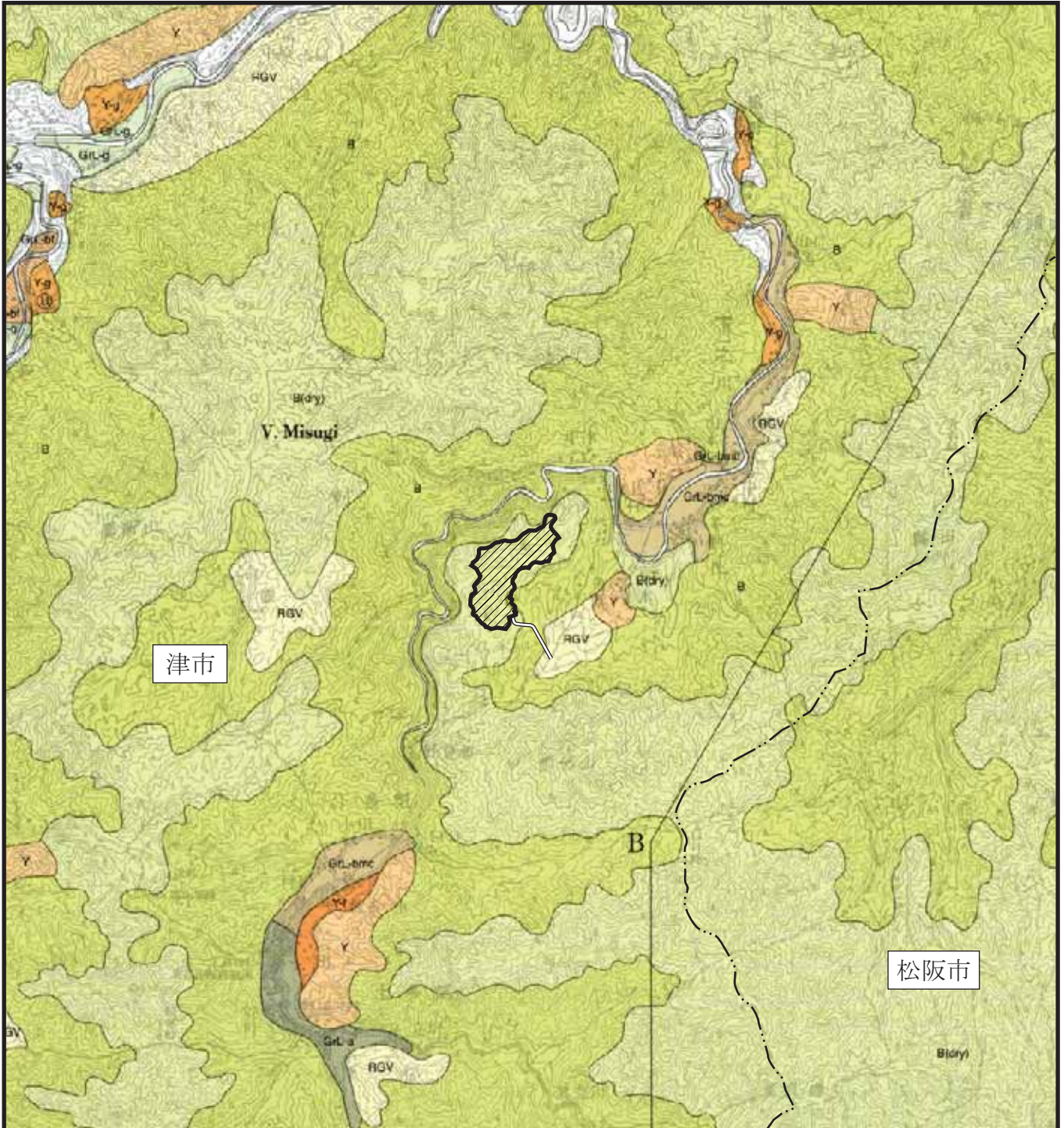


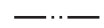



図3.1-7 対象事業実施区域周辺の土壤


凡 例


-  : 対象事業実施区域
-  : 進入路
-  : 市 界

未熟土


 HGV : 未熟土壌

褐色森林土

 B(dry-1) : 乾性褐色森林土壌

 B : 褐色森林土壌

黄色系褐色森林土


 Y : 黄色系褐色森林土壌

黄色土

 Y-i : 細粒黄色土壌

 Y-g : 礫質黄色土壌

灰色低地土

 GrL-g : 礫質灰色低地土壌・灰色系

 GrL-bf : 細粒灰色低地土壌・灰褐色系

 GrL-bmc : 中粗粒灰色低地土壌・灰褐色系

 GrL-a : 灰色低地土壌・下層黒ボク



1:50,000

0 1 2km

出典：「土地分類基本調査「二本木」・「丹生」土壤図」（平成15年3月、三重県）

### 3.1.4 地形及び地質の状況

#### (1) 地形及び地質の状況

「土地分類基本調査」による周辺の地形分類を図3.1-8に、表層地質を図3.1-9に示す。

三重県は、松阪市飯南町粥見を通り、東西に走る中央構造線によって、南北に分けられる。地質構造上は、この線より南側は西南日本の外帯、北側が内帯と呼ばれ、地質上・地形上でも異なっている。対象事業実施区域は、中央構造線の内帯に位置し、主に標高800m以下で、山頂部付近に傾斜面をもつ山地帯である。

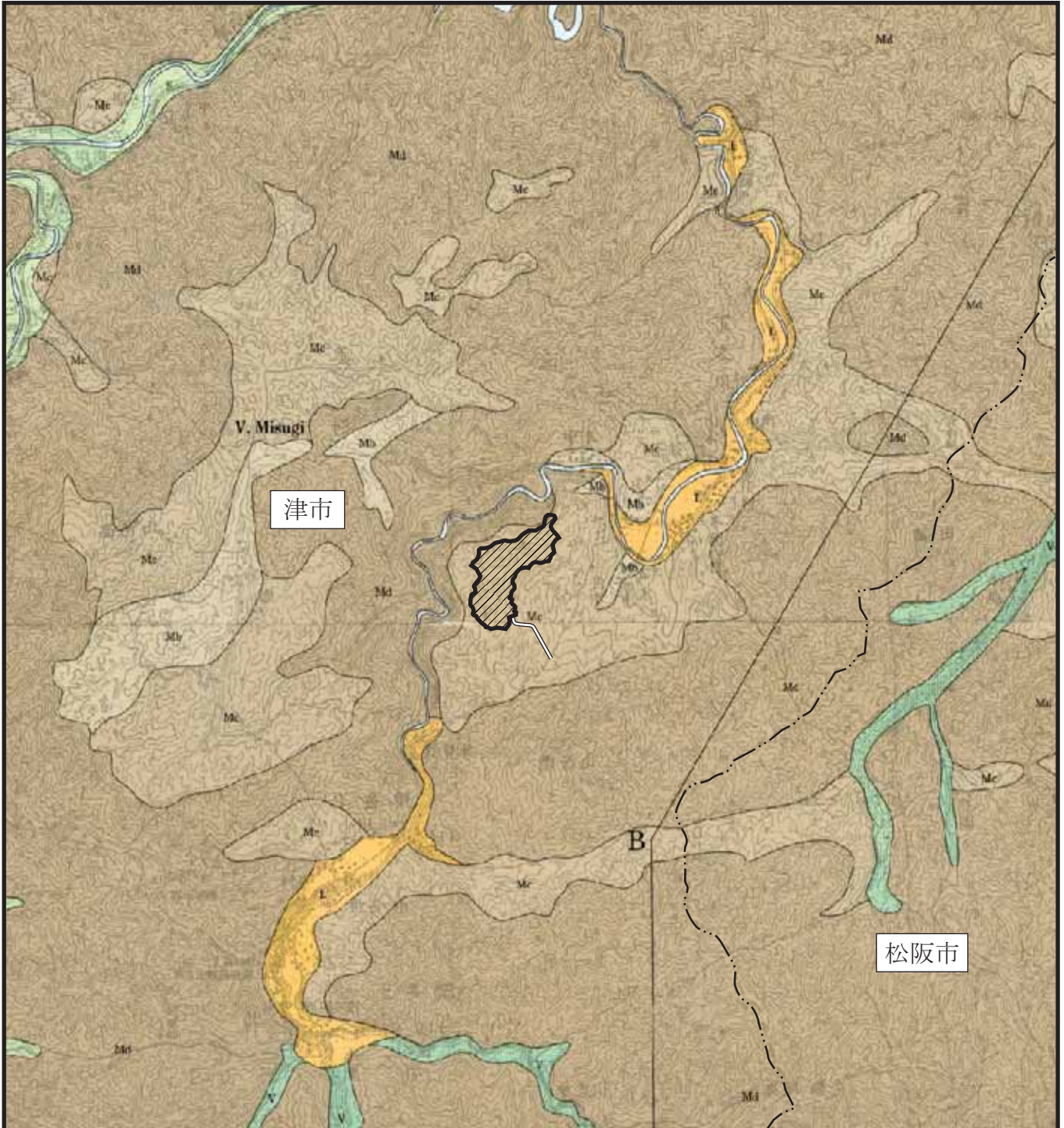
地質的には花崗岩類からなり、深層の風化により、山頂・山腹傾斜面や密度の高い谷地形が発達している。傾斜区分では、傾斜15°以上のやや急な斜面が多く分布する。

対象事業実施区域周辺の表層地質は、領家深成岩が広く分布する。領家深成岩はトータル岩・花崗閃緑岩類よりなり、粗粒～中粒で一般に片麻状構造をもっている。対象事業実施区域より東では、一志層群下部層（礫岩・砂岩）が分布している。




また、対象事業実施区域周辺に活断層はみられないが、対象事業実施区域の南東側に推定活断層がみられる（図3.1-10参照）。

なお、対象事業実施区域周辺に、「自然のレッドデータブック・三重-三重県の保護上重要な地形・地質および野生生物-」（1995年、三重自然誌の会）、「日本の地形レッドデータブック 第1集 -危機にある地形-」（2000年12月、古今書院）、「日本の地形レッドデータブック 第2集 -保存すべき地形-」（2003年3月、古今書院）に該当する重要な地形・地質はない。





凡 例

-  : 対象事業実施区域
-  : 進入路
-  : 市 界

- 山地
-  Mb : 山頂山腹緩斜面 (傾斜区分8~15°)
  -  Mc : 中間斜面 (傾斜区分15~30°)
  -  Md : 急斜面 (傾斜区分30° ~)




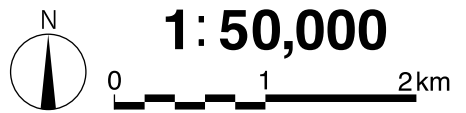
- 台地・段丘
-  L : 下位段丘

図3.1-8 対象事業実施区域周辺の地形分類

- 低地
-  F : 谷底平野・氾濫平野
- その他
-  V : 浅い谷
  -  P : 河川・池



出典：「土地分類基本調査「二本木」・「丹生」 地形分類図」（平成15年3月、三重県）



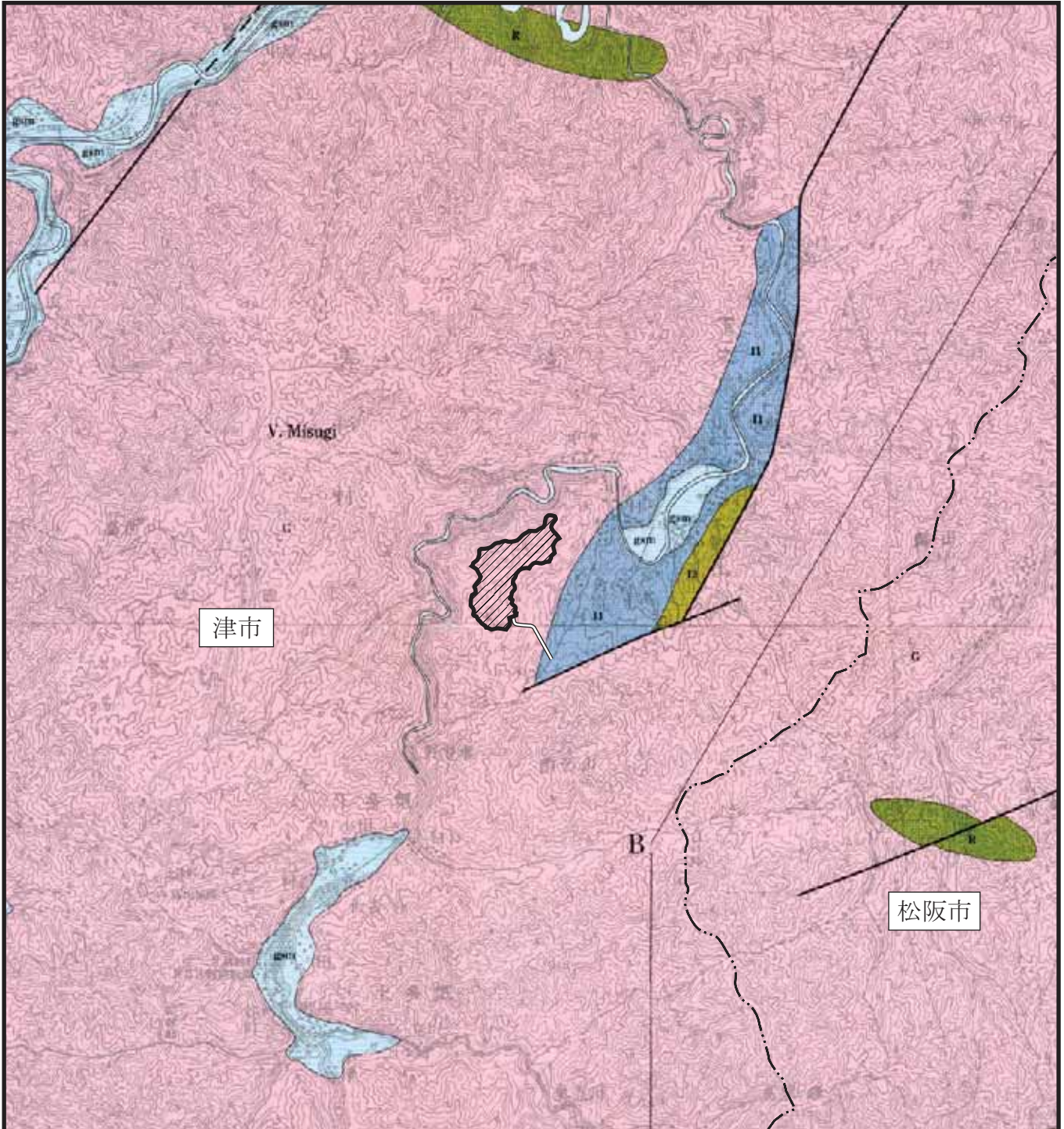









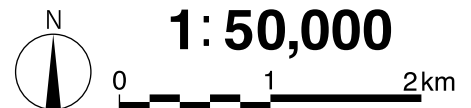


図3.1-9 対象事業実施区域周辺の表層地質

凡 例

-  : 対象事業実施区域
-  : 進入路
-  : 市 界

未固結堆積物	河床堆積物	礫砂泥を主とする堆積物	
固結堆積物および 変成岩・火成岩	一志層群中部層	泥岩・砂岩・凝灰質泥岩・凝灰岩	
	一志層群下部層	礫岩・砂岩	
	領家深成岩	花崗岩・閃緑岩類	
	領家変成岩	変輝緑岩・斑柘岩	
		断層	




出典：「土地分類基本調査「二本木」・「丹生」 表層地質図」（平成15年3月、三重県）





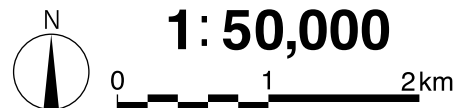
図3.1-10 対象事業実施区域周辺の推定活断層

凡 例

-  : 対象事業実施区域
-  : 進入路
-  : 市 界
-  : 推定活断層

※推定活断層とは  
 地形的な特徴により、活断層の存在が推定されるが、  
 現時点では明確に特定できないもの。または今後も  
 活動を繰り返すかどうか不明なもの。

出典：「三重県内活断層図（その2：中南勢及び周辺地域）」  
 （2007年、鈴木康弘・渡辺満久・廣中大助・杉戸信彦・三重県）



### 3.1.5 日照及び電波の状況

#### (1) 日照の状況

対象事業実施区域周辺は、標高約700m以下の植林地が広がる山地帯であり、主に谷部の八手俣川沿いに集落が分布する。

対象事業実施区域周辺には、日照障害となる高層の人工構造物はない。

#### (2) 電波の状況

対象事業実施区域周辺には、電波障害となる高層の人工構造物はない。

なお、対象事業実施区域が位置する津市美杉町下之川は、全世帯を対象にケーブルテレビが整備されている。



### 3.1.6 動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況

国や県等が発行した既存資料（表 3.1-10）により、対象事業実施区域周辺において生息または生育が確認された種及び群落、群集について取りまとめるとともに、表 3.1-11 の選定基準により重要な種及び群落・群集を選定した。

表 3.1-10 既存資料一覧

略称	資料名	抽出情報等
第1～6回自然基礎	第1回～第6回：「自然環境保全基礎調査」（昭和51年～平成16年、環境庁・環境省）	対象事業実施区域を含むメッシュデータ
三重県RDB	「三重県レッドデータブック 2005 動物」（2006 三重県） 「三重県レッドデータブック 2005 植物・キノコ」（2006 三重県）	対象事業実施区域を含むメッシュデータ（5万分の1地形図「伊勢奥津」）
三重の生物	「三重の生物」（1994年、三重県生物教育会）	三重大学演習林、美杉村、平倉、平倉山、三峰山、高見山地、大洞山、雲出川、八手俣川、奥津、川上、若宮八幡宮、漆、倉骨峠、坂本、真福院
三重その自然と動物	「三重 その自然と動物」（1986年、三重県良書出版会）	
赤目県立公園	「赤目一志峡県立公園（学術調査報告書）」（昭和50年、三重県）	一志峡、一志峡水源地帯三峰山地－国定公園付近、雲出川の水源地帯～大部分は室生・赤目・青山国定公園内、雲出川の水源地帯の峡谷部

表 3.1-11 重要な種及び群落の選定基準及び位置づけ

略称	選定基準及び位置づけ	動物	植物
文化財保護法	「文化財保護法」(昭和25年、法律第214号)による天然記念物 特：特別天然記念物 天：天然記念物	○	○
種の保存法	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成5年、法律第75号)による国内希少野生動植物種	○	○
環境省RDB	「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物1-レッドデータブック(哺乳類)」(平成14年、環境庁 編)	○	-
	「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物2-レッドデータブック(鳥類)」(平成14年、環境庁 編)		
	「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物3-レッドデータブック(爬虫類・両生類)」(平成12年、環境庁 編)		
	「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物4-レッドデータブック-汽水・淡水魚類」(平成15年、環境省編)		
	「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物5-レッドデータブック-昆虫類」(平成18年、環境省編)		
	「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物6-レッドデータブック-陸・淡水産貝類」(平成18年、環境省編)		
	「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物7-レッドデータブック-クモ形類・甲殻類等」(平成18年、環境省編)		
環境省RDB	「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物8-レッドデータブック-植物I(維管束植物)」(平成12年、環境庁 編)	-	○
	「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物9-レッドデータブック-植物II(維管束植物以外)」(平成12年、環境庁 編)	-	○
環境省RDB	CR(絶滅危惧IA類)：ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種	○	○
	EN(絶滅危惧IB類)：IA類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種		
	CR+EN(絶滅危惧I類)：絶滅の危機に瀕している種		
	VU(絶滅危惧II類)：絶滅の危険が増大している種		
	NT(準絶滅危惧)：現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種		
	DD(情報不足)：評価するだけの情報が不足している種		
	LP(絶滅のおそれのある地域個体群)：地域的に孤立しており、地域レベルでの絶滅のおそれが高い個体群(付属資料)		
環境省RL	「環境省レッドリスト」(平成19年、環境省記者発表資料) カテゴリは環境省RDBと共通	○	○
近畿(三重)	「近畿地区鳥類レッドデータブック」(2002年、江崎保男・和田 岳編) 1危機：危機的絶滅危惧種。絶滅する可能性が極めて大きい 2危惧：絶滅危惧種。絶滅する可能性が大きい 3準絶：準絶滅危惧種。絶滅する可能性がある 4なし：特に危険なし・・・本方法書の重要種の表には記載せず	○	-
三重県条例	三重県自然環境保全条例((平成15年三重県条例第2号)の規定による「三重県指定希少野生動植物種の指定」(平成16年、三重県)における三重県希少野生動植物指定種 三重県文化財保護条例(昭和32年三重県条例第72号)における三重県指定天然記念物	○	○
三重県RDB	「三重県レッドデータブック 2005 動物」(2006 三重県)	○	-
	「三重県レッドデータブック 2005 植物・キノコ」(2006 三重県)	-	○
	カテゴリは環境省RDBと基本的に共通 要	○	○

(1) 陸上動物

1) 哺乳類

既存資料によると、対象事業実施区域周辺では16科31種の哺乳類が確認されている。

「自然環境保全基礎調査」では、ミズラモグラ、ニホンザル、ノウサギ、ニホンリス、ムササビ、ツキノワグマ、タヌキ、キツネ、テン、イタチ、アナグマ、ニホンイノシシ、ニホンジカ、カモシカの14種が確認されている。

「三重県レッドデータブック2005動物」（三重県環境森林部自然環境室、平成18年）のメッシュ分布図では、ヒメヒミズ、モモジロコウモリ、コテングコウモリ、ニホンリス、ヤマネ、ツキノワグマ、カモシカの7種について、対象事業実施区域を含むメッシュでの分布もしくは記録があるとされている。

重要な種としては、表3.1-12に示すとおり、上記7種のほか、カワネズミ、ミズラモグラ、キクガシラコウモリ、テングコウモリ、モモンガの4目8科12種があげられる。

表 3.1-12 重要な哺乳類

番号	目	科	種名	既存資料								選定基準					
				1 第2 回自 然基 礎	2 第4 回自 然基 礎	3 第5 回自 然基 礎	4 第6 回自 然基 礎	5 三 重 県 R D B	6 三 重 の 生 物	7 三 重 そ の 自 然 と 動 物	8 赤 目 県 立 公 園	1 文 化 財 保 護 法	2 種 の 保 存 法	3 環 境 省 R D B	4 環 境 省 R L	5 三 重 県 条 例	6 三 重 県 R D B
1	モグラ	トガリネズミ	カワネズミ						○								VU
2		モグラ	ヒメヒミズ						○								VU
3			ミズラモグラ			○				○							VU
4	コウモリ	キクガシラコウモリ	キクガシラコウモリ							○							NT
5		ヒナコウモリ	モモジロコウモリ							○							NT
6			テングコウモリ								○					VU	VU
7			コテングコウモリ							○	○	○			VU		DD
8	ネズミ	リス	ニホンリス		○	○			○	○		○					NT
9			モモンガ							○							EN
10		ヤマネ	ヤマネ							○	○		天	NT	NT	○	VU
11	ネコ	クマ	ツキノワグマ	○	○	○	○	○	○					LP		○	EN
12		ウシ	カモシカ		○	○	○	○	○				特				NT
合計	4目	8科	12種	1	3	4	2	7	9	2	1	2	0	3	2	2	12

注) 既存資料：表3.1-10 参照

選定根拠：表3.1-11 参照

2) 鳥類

既存資料によると、対象事業実施区域周辺では12目36科84種の鳥類が確認されている。

「三重県レッドデータブック2005動物」（三重県環境森林部自然環境室、平成18年）のメッシュ分布図では、オシドリ、サシバ、クマタカ、ヤマドリ、オオコノハズク、ヨタカ等の6種について、対象事業実施区域を含むメッシュでの分布もしくは記録があるとされている。

重要な種としては、表3.1-13に示すとおり、これら6種に加えオオタカ、サシバ、コノハズク等の9目18科28種があげられる。

表 3.1-13 重要な鳥類

番号	目	科	種名	既存資料					選定基準							
				1 第2回 自然基礎	2 三重県 RDB	3 三重の 生物	4 三重その の自然と 動物	5 赤目県立 公園	1 文化財保 護法	2 種の保 存法	3 環境省 RDB	4 環境省 RL	5 近畿（三 重）	6 三重県 条例	7 三重県 RDB	
1	カモ	カモ	オシドリ		○								DD			CR
2	タカ	タカ	オオタカ						○		VU		NT			VU
3			サシバ		○		○					VU		3準絶		EN
4			クマタカ		○		○		○		EN		EN		2危惧	EN
5		ハヤブサ	チョウゲンボウ					○							2危惧	NT
6	キジ	キジ	ヤマドリ		○			○								NT
7	カッコウ	カッコウ	ジュウイチ					○							2危惧	
8	フクロウ	フクロウ	コノハズク				○	○				VU			2危惧	VU
9			オオコノハズク		○											DD
10			フクロウ					○								NT
11	ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ		○			○					VU		2危惧	DD
12	ブッポウソウ	カワセミ	アカショウビン					○							2危惧	VU
13		ブッポウソウ	ブッポウソウ					○			VU	EN			2危惧	DD
14	キツツキ	キツツキ	オオアカゲラ					○	○						2危惧	VU
15	スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ					○			VU	VU			3準絶	VU
16		イワヒバリ	カヤクグリ					○							3準絶	
17		ツグミ	クロツグミ					○								NT
18		ウグイス	センダイムシクイ					○							3準絶	NT
19			キクイタダキ					○							3準絶	EN
20			セッカ		○										3準絶	
21		ヒタキ	キビタキ				○	○							3準絶	NT
22			オオルリ		○										3準絶	
23			コサメビタキ					○							3準絶	DD
24		キバシリ	キバシリ					○							2危惧	
25		ホオジロ	ミヤマホオジロ					○							3準絶	
26			ノジコ					○			NT	NT				DD
27			クロジ					○							3準絶	
28		アトリ	ウソ				○								3準絶	
合計	9目	18科	28種	2	6	0	4	22	1	2	6	8	21			20

注) 既存資料：表3.1-10 参照  
選定根拠：表3.1-11 参照

### 3) 両生類・爬虫類

既存資料によると、対象事業実施区域周辺では2目6科15種の両生類、2目6科11種の爬虫類が確認されている。

「三重県レッドデータブック2005動物」（三重県環境森林部自然環境室、平成18年）のメッシュ分布図では、両生類でオオダイガハラサンショウウオ、ハコネサンショウウオ、オオサンショウウオの3種について、対象事業実施区域を含むメッシュでの分布もしくは記録があるとされている。

重要な種としては、表3.1-14に示すとおり、両生類ではこれら3種に加え、ブチサンショウウオ、イモリ、ヒキガエル、ナガレタゴガエルの2目5科7種が、爬虫類ではイシガメ、スッポン、シロマダラの2目3科3種があげられる。

表 3.1-14(1) 重要な両生類

番号	目	科	種名	既存資料				選定基準						
				1	2	3	4	1	2	3	4	5	6	
				第5回自然基礎	三重県RDB	三重の生物	赤目県立公園	文化財保護法	種の保存法	環境省RDB	環境省RL2006	三重県条例	三重県RDB	
1	サンショウウオ	サンショウウオ	ブチサンショウウオ			○						NT	NT	
2			オオダイガハラサンショウウオ		○	○						VU	○	VU
3			ハコネサンショウウオ		○									VU
4		オオサンショウウオ	オオサンショウウオ	○	○	○		特		NT	VU	○	VU	
5		イモリ	イモリ			○					NT			
6	カエル	ヒキガエル	ヒキガエル				○						NT	
7		アカガエル	ナガレタゴガエル			○							VU	
合計	2目	5科	7種	1	3	5	2	1	0	1	4	2	6	

注) 既存資料：表 3.1-10 参照  
選定根拠：表 3.1-11 参照

表 3.1-14(2) 重要な爬虫類

番号	目	科	種名	既存資料					選定基準			
				1	2	3	4	5	1	2	3	4
				自然環境保全	三重県RDB	三重の生物	赤目県立公園	三重その自然と動物	種の保存法	環境省RDB	環境省RL2006	三重県RDB
1	カメ	イシガメ	イシガメ				○				DD	
2		スッポン	スッポン			○			DD	DD	DD	
3	トカゲ	ヘビ	シロマダラ			○						NT
合計	2目	3科	3種	0	0	1	2	0	0	1	2	2

注) 既存資料：表 3.1-10 参照  
選定根拠：表 3.1-11 参照

#### 4) 昆虫類等

既存資料によると、対象事業実施区域周辺では14目92科272種の昆虫類が確認されている。

「三重県レッドデータブック2005動物」（三重県環境森林部自然環境室、平成18年）のメッシュ分布図では、ルリボシヤンマ、マエグロハネナガウンカ、タガメ、チャマルチビヒョウタンゴミムシ、ムネアカツヤケシコメツキ、カスリチビカミキリ、ホシモンマダラヒゲナガゾウムシ、オオマダラヒゲナガゾウムシ、ギフチョウ、ツマグロキチョウ、スジボソヤマキチョウ、オオムラサキ、クロヒカゲモドキ、ウラナミジャノメ本土亜種の14種について、対象事業実施区域を含むメッシュでの分布もしくは記録があるとされている。重要な種としては、表3.1-15に示すとおり、これら14種を含め、6目37科53種があげられる。

クモ類では「三重県レッドデータブック2005動物」（三重県環境森林部自然環境室、平成18年）のメッシュ分布図で、ドヨウオニグモ、シノビグモが対象事業実施区域を含むメッシュでの分布もしくは記録があるとされており、表3.1-16に示すとおり、これら1目2科2種がクモ類の重要種としてあげられる。

また、第2回自然環境保全基礎調査で位置情報が得られた重要な昆虫類を、図3.1-14に示した。



表 3.1-15 重要な昆虫類

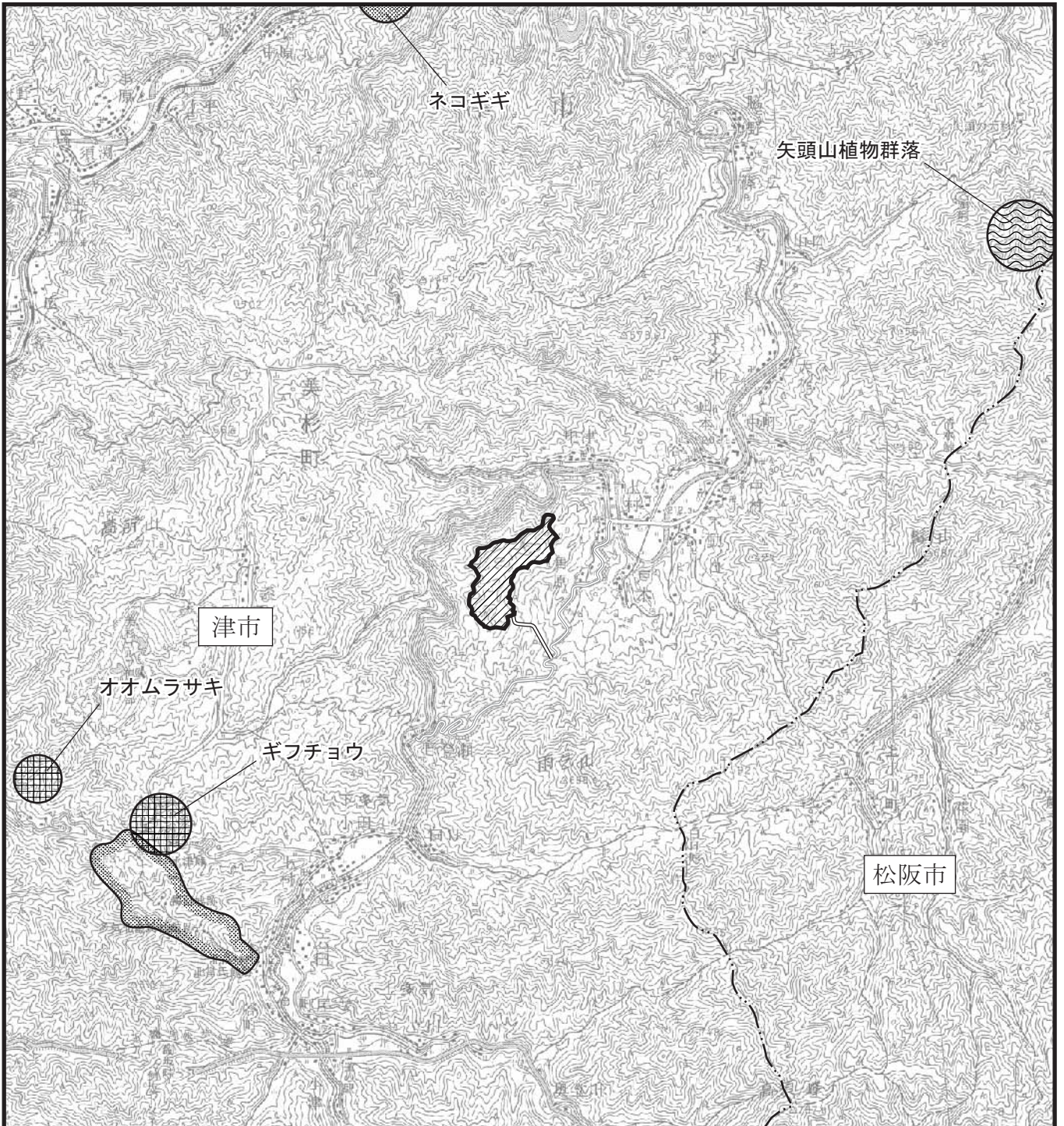
番号	目	科	種名	既存資料							選定基準							
				1 第2 回自然 環境基 礎	2 第4 回自然 環境基 礎	3 第5 回自然 環境基 礎	4 三重 RDB	5 三重 の生 物	6 三 重 そ の 自 然 と 動 物	7 赤 目 県 立 公 園	1 国 指 定 天 然 記 念 物	2 種 の 保 存 法	3 環 境 省 R D B	4 環 境 省 R L	5 三 重 県 条 例	5 三 重 県 R D B		
1	トンボ	モノサシトンボ	グンバイトンボ					○						VU	NT		EN	
2		ムカシトンボ	ムカシトンボ						○								VU	
3		サナエトンボ	コサナエ					○									EN	
4		ヤンマ	ルリボシヤンマ					○									EN	
5	ナナフシ	ナナフシ	シラキトビナナフシ						○								DD	
6	カメムシ	ハネナガウンカ	マエグロハネナガウンカ				○										DD	
7		セミ	アカエツセミ						○	○							VU	
8		コオイムシ	タガメ				○	○						VU	VU		NT	
9	アミメカゲロウ	ウスバカゲロウ	コマダラウスバカゲロウ							○							DD	
10	コウチュウ	ハンミョウ	ホソハンミョウ			○										NT	VU	
11		オサムシ	クロカタビロオサムシ					○	○								VU	
12			チャマルチビヒョウタンゴミムシ				○										DD	
13		ゲンゴロウ	キボシツブゲンゴロウ								○				NT	NT		VU
14		クワガタムシ	オニクワガタ								○							NT
15		コブスジコガネ	アイヌコブスジコガネ								○							NT
16		タマムシ	トゲフタオタマムシ								○							VU
17			アオタマムシ								○							VU
18		コメツキムシ	ムネアカツキケシコメツキ				○	○										DD
19		ベニボタル	チビジュウジベニボタル								○							DD
20			コガタカクムネベニボタル								○							EN
21		カッコウムシ	クロフアシナガカッコウムシ								○							EN
22		ツツシンクイ	オオメツツシンクイ								○							DD
23		ケシキスイ	シリグロオオケシキスイ								○							DD
24		オオキノコムシ	オオキノコムシ								○							VU
25		テントウムシダマシ	セダカテントウダマシ								○	○	○					VU
26			クロスジムクゲテントウダマシ								○							DD
27		ホソカタムシ	ルイスホソカタムシ								○	○						DD
28		ナガクチキムシ	ホソノミナガクチキ								○							NT
29			ミスジナガクチキ								○	○						DD
30		アカハネムシ	ヘリハネムシ								○		○					NT
31		アリモドキ	クロスジイッカク								○	○						NT
32		アトコブゴミムシダマシ	アトコブゴミムシダマシ								○							NT
33		ゴミムシダマシ	キムラチビコブツノゴミムシダマシ								○							DD
34			コチビツノゴミムシダマシ								○							DD
35			コモンキノゴミムシダマシ								○	○						DD
36		カミキリムシ	トゲムネホソヒゲカミキリ								○							DD
37			カスリチビカミキリ								○							DD
38			クロサウヒメコバネカミキリ								○							DD
39			キイロアラゲカミキリ								○	○	○					DD
40	ヒゲナガゾウムシ	クロオビヒゲナガゾウムシ								○							NT	
41		ホシモンマダラヒゲナガゾウムシ								○							DD	
42		オオマダラヒゲナガゾウムシ								○	○						DD	
43	ミツギリゾウムシ	アカツツホソミツギリゾウムシ								○	○						DD	
44		ヒメマルミツギリゾウムシ								○							DD	
45	ゾウムシ	シロカレキゾウムシ								○	○						VU	
46	チョウ	アゲハチョウ	ギフチョウ	○				○		○				VU	VU		VU	
47		シロチョウ	ツマグロキチョウ						○						VU	VU		VU
48			スジボソヤマキチョウ						○									EN
49		シジミチョウ	オオミドリシジミ								○	○						VU
50			クロシジミ								○	○				CR+EN	CR+EN	VU
51		タテハチョウ	オオムラサキ								○	○				NT	NT	NT
52		ジャノメチョウ	クロヒカゲモドキ								○					VU	VU	VU
53			ウラナミジャノメ本土亜種								○	○				VU		EN
合計		6目	37科	53種		2	3	4	14	29	19	8	0	0	0	9	9	0

注) 既存資料：表 3.1-10 参照  
 選定根拠：表 3.1-11 参照

表 3.1-16 重要なクモ類

番号	目	科	種名	既存資料		選定基準					
				1	2	1	2	3	4	5	
				三重の生物	三重県 R D B	国指定天然記念物	種の保存法	環境省 R D B	環境省 R L	三重県 R D B	
1	クモ	コガネグモ	ドヨウオニグモ	○	○						NT
2		サシアシグモ	シノビグモ		○						VU
合計	1目	2科	2種	1	2	0	0	0	0	0	2

注) 既存資料：表 3.1-10 参照  
 選定根拠：表 3.1-11 参照



凡 例








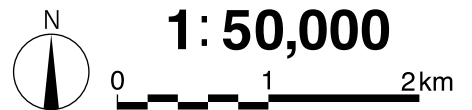
-  : 対象事業実施区域
-  : 進入路
-  : 市 界
-  : 特定植物群落
-  : 淡水魚類
-  : 昆虫類
-  : 国定公園

図3.1-11 対象事業実施区域周辺の動植物分布



出典：「第2回自然環境保全基礎調査 動植物分布図」（昭和56年、環境庁）

## (2) 陸上植物等及びキノコ類

### 1) 維管束植物

既存資料によると、対象事業実施区域周辺では5目76科203種の植物が確認されている。

「三重の生物」では三重大学演習林、美杉村での記録がある種が19科21種、「赤目一志峡県立公園(学術報告書)」(三重県、昭和50年)では三峰山や雲出川における確認種として、オニノヤガラやショウキラン等の絶滅危惧IB類の種を含め、63科160種が掲載されている。

「三重県レッドデータブック2005植物」(三重県環境森林部自然環境室、平成18年)のメッシュ分布図では、絶滅危惧IA類のヒキノカサや絶滅危惧IB類のクロミノイタチシダ、オニノヤガラ、ショウキラン等を含め、28種が対象事業実施区域を含むメッシュでの分布もしくは記録があるとされている。

重要な種としては、これらの28種をはじめとし、表3.1-17に示すとおり、16科35種があげられる。

表 3.1-17 重要な植物

番号	分類	科	種名	既存資料				選定基準					
				1 三重 県 R D B	2 自然 R D B 三重	3 三重 の 生 物	4 赤 目 県 立 公 園	1 種 の 保 存 法	2 環 境 省 R D B	3 環 境 省 R L	4 三 重 県 条 例	5 三 重 県 R D B	
1	シダ植物	コケシノブ	コケシノブ	○								VU	
2		オシダ	クロミノイタチシダ	○								EN	
3		ヒメシダ	ミゾシダモドキ	○								VU	
4		メシダ	フモトシゲシダ	○								NT	
5			イワヤシダ	○								VU	
6			サンショウモ	サンショウモ			○			VU	NT		VU
7	離弁花類	キンポウゲ	ユキワリイチゲ	○								NT	
8			トリガタハンショウヅル	○								NT	
9			ヒキノカサ	○					VU	VU		CR	
10			シギンカラマツ	○								VU	
11			マメ	ニワフジ	○								NT
12			ツリフネソウ	ハガクレツリフネ	○								VU
13	合弁花類	ツツジ	カイナンサラサドウダン	○								NT	
14			アカヤシオ	○								NT	
15			アカネ	イナモリソウ	○								NT
16			シソ	オウギカズラ	○								NT
17				ウスギナツノタムラソウ	○								NT
18			ゴマノハグサ	クワガタソウ	○								VU
19			キク	クサヤツデ	○								NT
20	単子葉植物	ユリ	ヒメユリ	○					EN	EN		DD	
21			ササユリ	○									NT
22			カヤツリグサ	アズマスゲ	○								VU
23				サワヒメスゲ	○								VU
24				コシンジュガヤ	○								NT
25			ラン	マメヅタラン				○		VU	NT		NT
26				ムギラン				○		VU	NT		NT
27				エビネ	○					VU	NT		NT
28				オニノヤガラ				○					EN
29				ギボウシラン	○						EN		DD
30				ヨウラクラン	○			○					VU
31				トンボソウ	○			○					NT
32				ベニカヤラン(マツラン)				○			VU		DD
33				モミラン	○						VU		DD
34				クモラン				○					VU
35			ショウキラン				○					EN	
合計	4分類	16科	35種	28	0	1	8	0	6	9	0	35	

注) 既存資料 : 表 3.1-10 参照  
 選定根拠 : 表 3.1-11 参照



## 2) 蘚苔類・地衣類

既存資料によると、対象事業実施区域周辺では14目34科50種（目科不明2種含む）の蘚苔類・地衣類が確認されている。「三重の生物」では蘚苔類として三重大学演習林、美杉村で22種が、「赤目一志峡県立公園」では蘚苔類として35種、地衣類としてサルオガセの一種の1種の記載がある。

「三重県レッドデータブック 2005 植物」（三重県環境森林部自然環境室、平成18年）のメッシュ分布図では、トサヒラゴケ、ホソミツヤゴケ、オオヒラツボゴケ、トガリスギバゴケ、チチブイチョウゴケの5種について、対象事業実施区域を含むメッシュでの分布もしくは記録があるとされている。

重要な種としては、表3.1-18に示すとおり、10科14種があげられる。

表 3.1-18 重要な蘚苔類・地衣類

番号	目	科	種名	既存資料			選定基準		
				1 三重の生物	2 三重県RDB	3 赤目県立公園	1 環境省RDB	2 環境省RL	3 三重県RDB
1	マゴケ	チョウチンゴケ	コチョウチンゴケ			○			VU
2	タチヒダゴケ	タチヒダゴケ	イブキキンモウゴケ	○			VU	VU	EN
3			オオミゴケ	○					EN
4			ヒログチキンモウゴケ	○			DD	VU	DD
5	イヌマゴケ	ヒムロゴケ	オオミミゴケ	○					EN
6		ヒラゴケ	トサヒラゴケ		○		CR+EN	NT	NT
7	シトネゴケ	ツヤゴケ	ホソミツヤゴケ		○				NT
8		ハイゴケ	オオヒラツボゴケ	○	○				NT
9		イワダレゴケ	イワダレゴケ	○					VU
10			シノブヒバゴケ	○					EN
11			タチハイゴケ	○					VU
12	ウロコゴケ	ムチゴケ	トガリスギバゴケ		○				CR
13		ヤバネゴケ	エゾヒメヤバネゴケ	○					CR
14		チチブイチョウゴケ	チチブイチョウゴケ	○	○			VU	EN
	5目	10科	14種	10	5	1	3	4	14

注) 既存資料：表 3.1-10 参照

選定根拠：表 3.1-11 参照

### 3) キノコ類

既存資料によると、対象事業実施区域周辺では5目14科73種（目・科不明4種を含む）のキノコ類が確認されている。「三重の生物」では三重大学演習林、美杉村で69種の記載がある。

「三重県レッドデータブック2005植物」（三重県環境森林部自然環境室、平成18年）のメッシュ分布図では、マツタケ、アマタケ、ホウキタケ、ドクササコの4種について、対象事業実施区域を含むメッシュでの分布もしくは記録があるとされている。

重要な種としては、表3.1-19に示すとおり、これら4種に加え、ツキヨタケ、ヤマドリタケ、エビタケの4科7種が確認された。

表 3.1-19 重要なキノコ類

番号	目名	科名	種名	既存資料		選定基準		
				1	2	1	2	3
				三重県RDB	三重の生物	環境省RDB	環境省RL	三重県RDB
1	ハラタケ	キシメジ	ドクササコ	○				DD
2			ツキヨタケ		○	VU		
3		イグチ	マツタケ	○			NT	EN
4			ヤマドリタケ		○		DD	
5			アマタケ	○				VU
6	ヒダナシタケ	マンネンタケ		○	CR+EN			
7		ホウキタケ	○				VU	
	2目	4科	7種	4	3	2	2	4

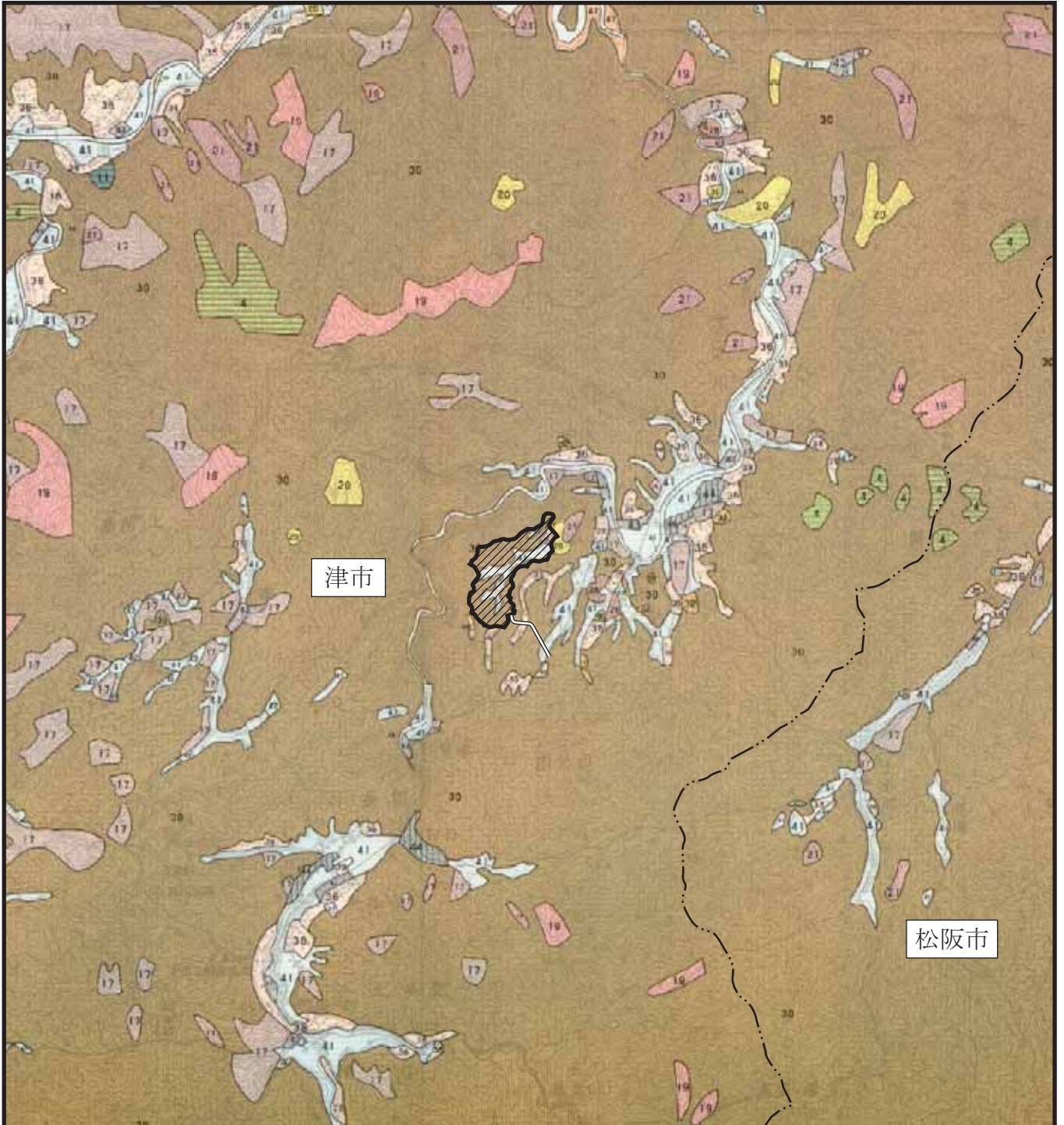
注) 既存資料：表 3.1-10 参照  
 選定根拠：表 3.1-11 参照

#### 4) 植物群落

図3.1-12に対象事業実施区域周辺の植生図を示す（「第3回自然環境保全基礎調査現存植生図 三重県(二本木)」(環境庁、昭和60年))。これによれば、対象事業実施区域周辺の植生はスギ・ヒノキ植林及び水田雑草群落为主体となっている。

「日本の重要な植物群落 東海版」(第2回自然環境保全基礎調査)(昭和55年、環境庁)「第3回自然環境保全基礎調査特定植物群落－日本の重要な植物群落Ⅱ東海版－」(環境庁、昭和63年)、「第5回自然環境保全基礎調査-特定植物群落調査報告書」(平成12年、環境省)による特定植物群落としては、図3.1-11に示すとおり、「矢頭山植物群落」が挙げられる。なお、「植物群落レッドデータブック」(1996年、植物群落分科会編)に該当する群落は対象事業実施区域周辺には存在しない。





津市

松阪市

図3.1-12 対象事業実施区域周辺の現存植生

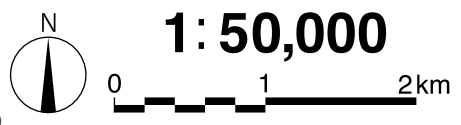
凡 例

- : 対象事業実施区域
- : 進入路
- : 市界

- V. ブナクラス域代償植生
- : アカシデーヌシデ群落 (ヤブツバキクラス域と共通)
- VI. ヤブツバキクラス域自然植生
- : ケヤキ群落
- VII. ヤブツバキクラス域代償植生
- : クヌギ・コナラ群落

- : 伐採群落
  - : ススキ群団
  - : アカマツ群落
- IX. 植林地、耕作地植生(各クラス域共通)
- : スギ・ヒノキ植林
  - : 桑園
  - : 茶畑
  - : 畑地雑草群落

- : 水田雑草群落
- X. その他
- : 市街地
- : 自然裸地
- : 開放水域



出典: 「第3回 自然環境保全基礎調査(植生調査) 現存植生図 三重県(二本木)」 (昭和60年、環境庁)

### (3) 水生生物

対象事業実施区域付近を水源域の一部とする水系は、雲出川水系である。

対象事業実施区域周辺は、雲出川の上流にあたる。対象事業実施区域直下にある下之川集落の中心を八手俣川が流れており、君ヶ野ダムを経て、雲出川に合流する。

既存資料によると魚類はオイカワ、カワムツ、アカザ、カジカ等をはじめとする9目12科33種が確認されている。底生動物ではサワガニ、アメリカザリガニ、カゲロウ類をはじめとする2綱11科40種が確認されている。

魚類の重要種としては表3.1-20に示すとおり、スナヤツメ、ウナギ、ズナガニゴイ、メダカ等の8目9科13種が確認された。底生動物では重要な種は確認されなかった。

また、第2回自然環境保全基礎調査で位置情報が得られた重要な魚類を、図3.1-11に示した。

表 3.1-20 重要な魚類

番号	目	科	種名	既存資料						選定基準						
				1 第4 回自 然環 境分 布図	2 第5 回自 然環 境分 布図	3 三重 県R DB	4 三重 の生 物	5 赤目 県立 公園	6 三重 その 自然 と動 物	1 文化 財保 護法	2 種の 保存 法	3 環境 省R DB	4 環境 省R L2 00 07	5 三重 県条 例	6 三重 県R DB	
1	ヤツメウナギ	ヤツメウナギ	スナヤツメ						○			VU			VU	
2	ウナギ	ウナギ	ウナギ					○	○				DD			
3	コイ	コイ	ヤリタナゴ						○				NT		VU	
4			タイリクバラタナゴ						○							
5			ハス						○				VU			
6			ズナガニゴイ	○	○	○				○						EN
7			イトモロコ							○						VU
8	ナマズ	ギギ	ネコギギ				○		○	天		EN	EN		CR	
9		アカザ	アカザ	○	○	○		○	○			VU	VU		VU	
10	サケ	サケ	アマゴ(陸封型)	○	○			○	○				NT			
11	ダツ	メダカ	メダカ				○		○				VU		NT	
12	タウナギ	タウナギ	タウナギ						○				EN			
13	カサゴ	カジカ	カジカ	○	○			○	○				NT		VU	
合計	8目	9科	13種	4	4	2	2	4	13	1	0	4	8	0	8	

注) 既存資料：表3.1-10 参照

選定根拠：表3.1-11 参照

#### (4) 生態系

対象事業実施区域の周辺の地形は、多くが標高700～800mに達する山地の急峻な斜面地となっており、平坦地は八手俣川沿いに見られる程度である。また、河川は、八手俣川を除くと斜面地内に沢や小河川が散見される程度で、池沼などの止水環境は認められない。植生図によると、斜面地の大部分は、スギ・ヒノキ植林地が占めており、落葉広葉樹林は稜線付近や極めて急峻な斜面地などに点在する程度である。一方、八手俣川沿いの平坦地では、水田耕作地が目立つほか、集落などもおおむね平坦地周辺に点在する。

このような地域にあって対象事業実施区域は、標高400m程度の斜面地に囲まれた高低差約50m程度の谷地に存在する。対象事業実施区域の斜面地でもおおむねスギ・ヒノキ植林地が成立するが、谷底に比較的まとまった流量を有する沢が存在し、途中の放棄水田地由来の平坦地には、良好な湿地環境が成立する。この沢は、対象事業実施区域を通過して八手俣川に流入するが、途中に設置された砂防堰堤によって水環境としての連続性は断たれている。

現地踏査において、対象事業実施区域内のスギ・ヒノキ植林地では、シカやキツネなどの哺乳類、キツツキ類やエナガ、カラ類などの樹林性鳥類、ハルゼミなどの昆虫類が確認された。また、湿地では、日当たりの良い湿地環境を好むヒメシダやミゾソバなどが生育する他、シュレーゲルアオガエルやタゴガエルなどの両生類、トンボ類なども確認された。

このような点を踏まえ、対象事業実施区域の環境類型区分は、表3.1-21及び図3.1-13に示すとおり、「樹林環境」「湿地環境」及び「溪流環境」の3区分に整理できる。

なお、文献調査結果を踏まえると、今後の現地調査によって、周辺の樹林地ではクマタカやオオタカ、フクロウなどの猛禽類をはじめとする樹林性の鳥類や昆虫類、湿地では小型サンショウウオ類や湿性の草本類、トンボ類などの昆虫類が確認される可能性がある。

表 3.1-21 対象事業実施区域内の環境類型区分

環境区分		区分の概要	現地写真
陸域	樹林環境	対象事業実施区域の大部分がこの環境区分に該当し、スギ・ヒノキ植林から構成されている。林内及び林床が暗く、生育する植物は少なく、サイゴクイノデやイノデ等のシダ植物が目立つ。尾根上には小規模ながらコナラやクヌギからなる落葉広葉樹林も分布している。	
	湿地環境	水田跡地（現存植生図では、水田雑草群落）には日当たりが良い湿地が広がり、アカメヤナギなどの木本やヒメシダやミゾソバなどが広く分布しており、セリ、カヤツリグサ科、ホシクサ科等も見られる。	
水域	溪流環境（沢環境）	対象事業実施区域内及び進入路には、周辺の湧水からなる溪流環境（沢環境）がみられる。溪流環境周辺では、タゴガエルなどの両生類が見られる。	

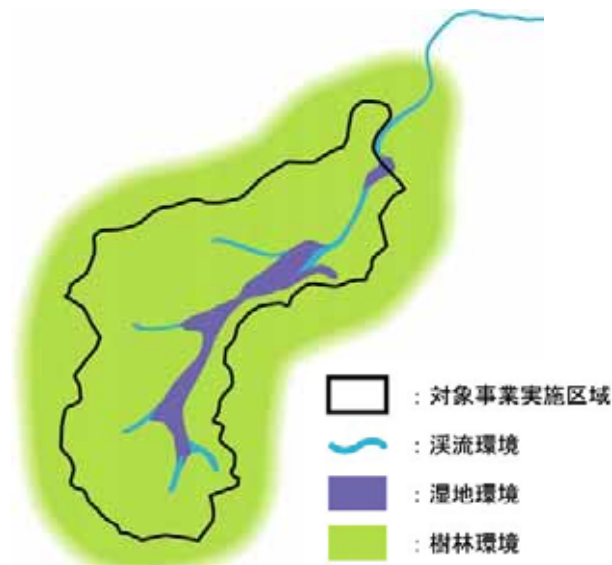


図 3.1-13 対象事業実施区域内の環境類型区分の概要図



### 3.1.7 人と自然との触れ合いの活動の場の状況

対象事業実施区域周辺の「人と自然との触れ合いの活動の場」を図3.1-14及び表3.1-22に示す。

対象事業実施区域周辺は、山林に囲まれた地域であり、「君ヶ野ダム湖畔コース」等の3つのハイキングコースと「ヒストリーパーク塚原」等の4つのキャンプ場、「近畿自然歩道」がある。また、周辺にはアユ・アマゴつりができる八手俣川や雲出川が流れている。

表 3.1-22 人と自然との触れ合いの活動の場の名称・概要

番号	種類	名称	概要
A	ハイキングコース (森林セラピーロード)	君ヶ野ダム湖畔コース	ダム湖畔の広葉樹林に囲まれたなだらかな折り返しコース (約 10.7km)
B		高東山コース	君ヶ野ダム湖畔から高東山山頂を目指す遊歩道コース (約 8.6km)
C		塚原ヒストリーコース	仲山神社やヒストリーパーク塚原など下之川集落を歩く周回コース (約 4.4km)
D		北畠歴史探索コース	北畠神社や美杉ふるさと資料館など上多気集落を歩くなだらかなコース (約 10.0km)
E		霧山コース	北畠氏館跡から霧山城址までの歴史遺産探訪コース (約 3.5km)
F		伊勢本街道コース	旧伊勢本街道の宿場町 (のれん街) や飼坂峠、霧山城址を歩く健脚コース (約 11.6km)
1	キャンプ場	矢頭中宮キャンプ場	矢頭の山中にあり、天然記念物「矢頭の大杉」を中心としたエリアに木造の施設が点在する。美しい清流が流れ、恵まれた環境の中でキャンプを楽しむことができる。
2		ヒストリーパーク塚原	全 50 サイトのキャンプサイトの他、バーベキューコーナーや遊歩道が整備されている。また、大自然の中で川のせせらぎが聞こえ、6 月頃にはホテルが飛びかう。
3		清流の里ぬくみ	キャンプサイト、ログハウス・コテージ、バーベキューハウス、お風呂棟、炊事棟、温水シャワー、水洗トイレ、洗濯機が整備されており、川遊び、あまごつかみなど自然を体感できる。
—	つり場	雲出川	上流～中流にかけて、アマゴつりができる。対象周辺は、雲出川の上流にあたる。
—		八手俣川	対象事業実施区域直下にある下之川集落の中心を流れる河川であり、君ヶ野ダムを経て、雲出川に合流する。アマゴつりができる。

出典：「森林セラピーガイドマップ」(平成 21 年 4 月 津市)

「三重の旅おでかけ情報データブック 2009 保存版」(2009 年 社団法人 三重観光連盟)

「美杉観光 MAP」(津市美杉町)

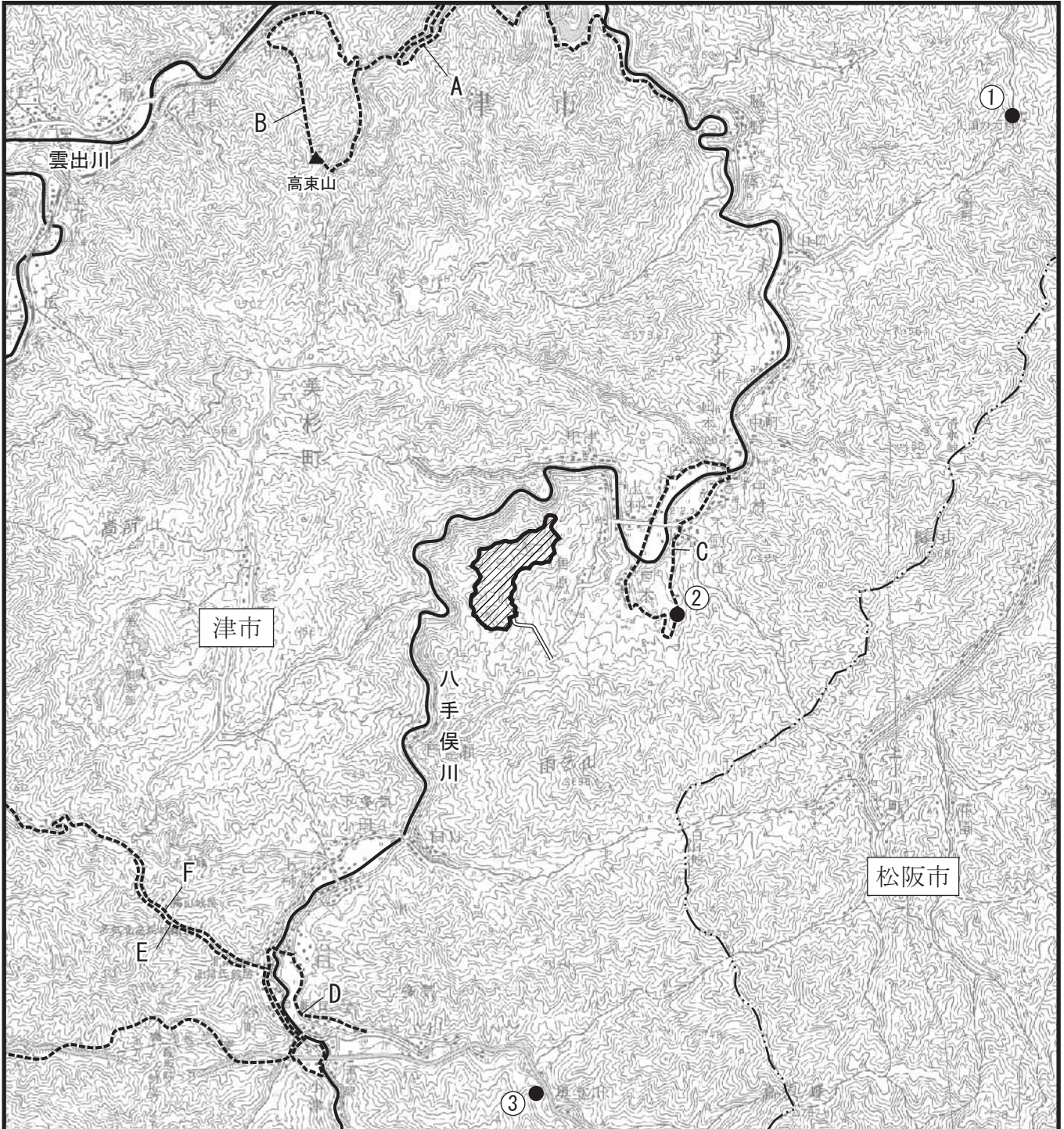








図3.1-14 対象事業実施区域周辺の人と自然との触れ合い活動の場

凡 例

-  : 対象事業実施区域
-  : 進入路
-  : 市 界
-  : キャンプ場 (①～③)
-  : ハイキングコース (森林セラピーロード) (A～F)
-  : つり (雲出川、八手俣川)

出典：「森林セラピーガイドマップ」(平成21年4月、津市)  
 「三重のおでかけ情報データマップ2009保存版」(平成21年、社団法人三重観光連盟)  
 「美杉観光MAP」(津市美杉町)



### 3.1.8 景観の状況

対象事業実施区域周辺の自然景観資源及び主要な眺望点を表 3.1-23 及び図 3.1-15 に示す。

対象事業実施区域周辺は、雨乞山（標高 698.7m）、佐田山（標高 745.0m）、高所山（標高 772.0m）などの山々に囲まれた地域である。これらの山々の谷に沿って、八手俣川が流れ、八手俣川沿いに集落が広がる。八手俣川は、桜の名所である君ヶ野ダムを経て、雲出川へ合流する。また、周辺には、「第3回自然環境保全基礎調査」（平成元年 環境庁）に掲載されている非火山性孤峰の矢頭山がある。

主要な眺望点としては、ヒストリーパーク塚原のキャンプ場があるが、対象事業実施区域は山林に囲まれているため、眺望することはできない。

表 3.1-23 対象事業実施区域周辺の自然景観資源及び主要な眺望点の名称・概要

番号	種類	名称	概要
1	自然景観資源	君ヶ野ダム公園	春の桜、夏の新緑、秋の紅葉、冬の雪景色と四季折々の景観を見ることができる。ダム周辺に桜やモミジが植えられている。
2		矢頭山	「第3回自然環境保全基礎調査」（平成元年 環境庁）に掲載されている標高 723m の非火山性孤峰である。
3		雲出川	上流～中流にかけて、アマゴつりなどができる。対象事業実施区域周辺は、雲出川の上流域にあたる。
4		八手俣川	対象事業実施区域の直下にある下之川集落の中心を流れる清流である。アマゴつりなどができる。
A	主要な眺望点	ヒストリーパーク塚原	全 50 サイトのキャンプサイトの他、バーベキューコーナーや遊歩道が整備されている。

出典：「第3回自然環境保全基礎調査」（平成元年 環境庁）

「三重の旅おでかけ情報データブック 2009 保存版」（2009年 社団法人 三重観光連盟）

「美杉観光 MAP」（津市美杉町）



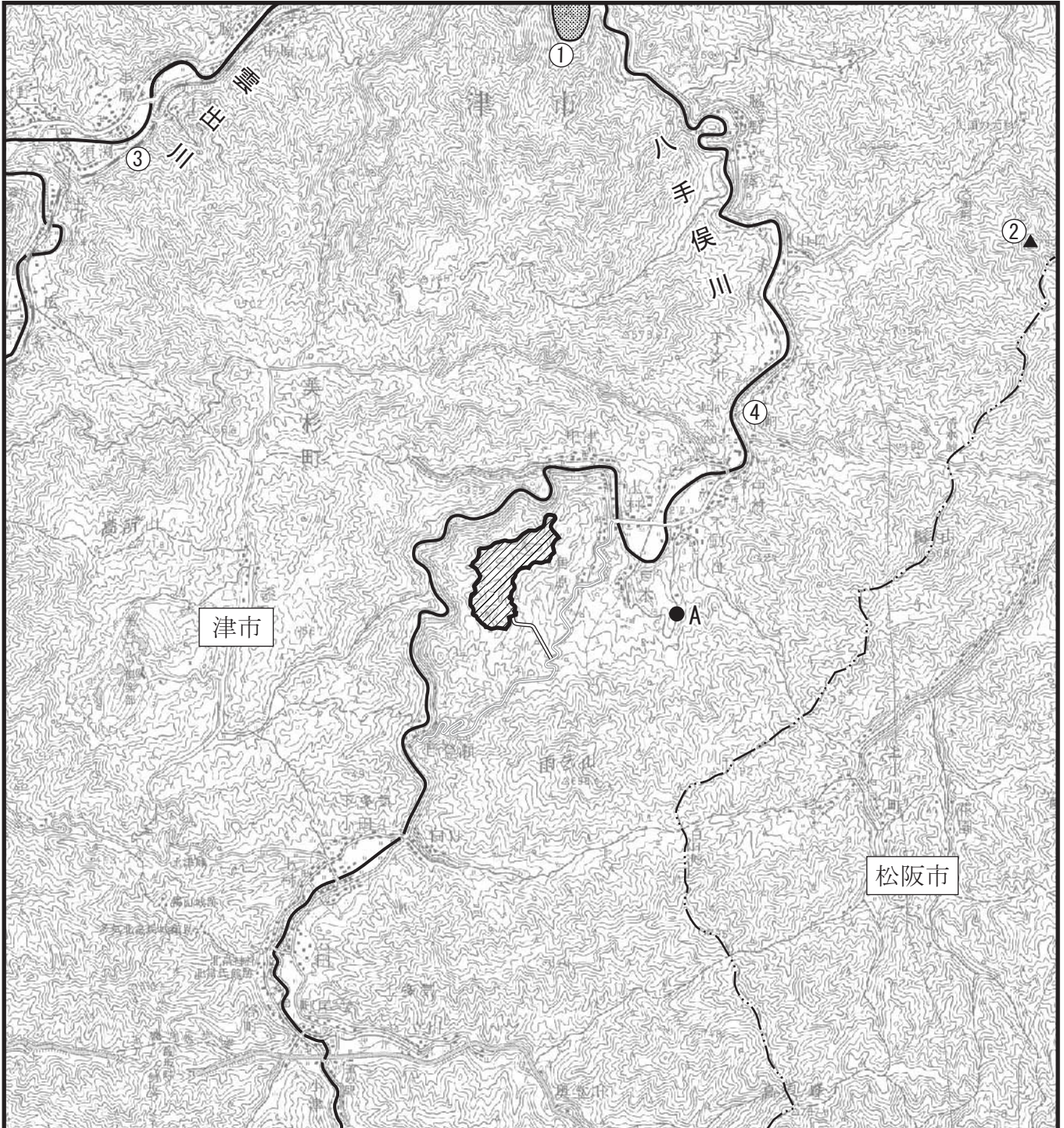


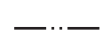





図3.1-15 対象事業実施区域周辺の自然観光資源及び主要な眺望点

凡 例

-  : 対象事業実施区域
-  : 進入路
-  : 市 界

自然観光資源 (①～④)

-  : 非火山性孤峰
-  : 河川
-  : ダム

主要な眺望地点 (A)

-  : キャンプ場



1:50,000

0 1 2km

出典：「第3回自然環境保全基礎調査」（環境庁）  
「三重のおでかけ情報データマップ2009保存版」（平成21年、社団法人三重観光連盟）  
「美杉観光MAP」（津市美杉町）



### 3.1.9 歴史的文化的な遺産の状況

対象事業実施区域周辺の指定文化財を表 3.1-24 及び図 3.1-16 に、埋蔵文化財包蔵地を表 3.1-25 及び図 3.1-17 に示す。

対象事業実施区域周辺では、無形民俗文化財である「牛蒡（ごんぼ）祭」や、有形文化財である「木造台座」、「仲山神社棟札」等の4つ文化財が三重県や本市の文化財として指定されている。牛蒡祭は、毎年2月に仲山神社で行われる祭りである。

対象事業実施区域内に分布する埋蔵文化財包蔵地はない。

なお、対象事業実施区域周辺には、国指定文化財は分布しない。

表 3.1-24 対象事業実施区域周辺の指定文化財

番号	種別		名称	文化財の指定
1	無形民俗文化財		牛蒡祭	三重県指定
2	有形文化財	工芸品	木造台座	三重県指定
3		彫刻	仲山神社本殿「彫刻」	津市指定
4		古文書	仲山神社棟札	津市指定
5	記念物	史跡	下之川古墳と遺物	津市指定

出典：「津市の文化財」（平成21年1月1日現在 津市ホームページ）

表 3.1-25 対象事業実施区域周辺の埋蔵文化財包蔵地

番号	種別	名称	地目	遺物	備考
1	館跡	伝阿弥陀屋敷跡	水田	石碑、五輪塔	
2	遺物散布地	堂川原遺跡	畑地	石鏃	遺物は個人所有、消滅
3	遺物散布地	吉備地遺跡	水田、畑地	土師器、山茶碗、陶器	
4	遺物散布地	山本遺跡	水田、畑地	土師器、灰釉陶器、陶器、磁器	
5	遺物散布地	富田遺跡	水田	縄文土器、土師器、陶器、磁器	
6	遺物散布地	中村遺跡	畑地	土師器、陶器、磁器	
7	城跡	三谷城跡	山林		
8	城跡	宇城跡	山林		
9	城跡	椿原城跡	山林		
10	遺物散布地	神山遺跡	畑地	土師器、陶器	
11	遺物散布地	村遺跡	水田	土師器、須恵器、山茶碗、陶器、土錘	
12	古墳	下之川古墳	宅地	須恵器（提瓶、埴）	津市指定史跡
13	中世墓	塚原中世墓	山林		
14	館跡	伝塚原卜伝屋敷跡	山林		
15	遺物散布地	戸木 A 遺跡	宅地	山茶碗	
16	遺物散布地	戸木 B 遺跡	山林	土師器、山茶碗、鉄鏃	
17	寺院跡	多気北畠氏遺跡（伝金国寺跡）	山林	土師器、陶器	
18	社跡	同（伝金生明神跡）	山林		
19	古墳	同（小田古墳）	山林		半壊
20	遺物散布地	同（小田地区）	水田、畑地	土師器、山茶碗、瓦器、天目茶碗、陶器、磁器	
21	寺院跡	同（伝分寿院跡）	水田		
22	遺物散布地	同（白口地区）	水田、宅地		忠七屋敷伝承地
23	遺物散布地	野登瀬 A 遺跡	水田、畑地、宅地	土師器、陶器	
24	遺物散布地	野登瀬 B 遺跡	畑地	土師器、陶器	
25	番所跡	同（白口峠番所跡）	山林		推定地
26	番所跡	同（桜峠番所跡）	山林		推定地

出典：「三重県一志郡 美杉村遺跡分布地図」（1996年3月、美杉村教育委員会）

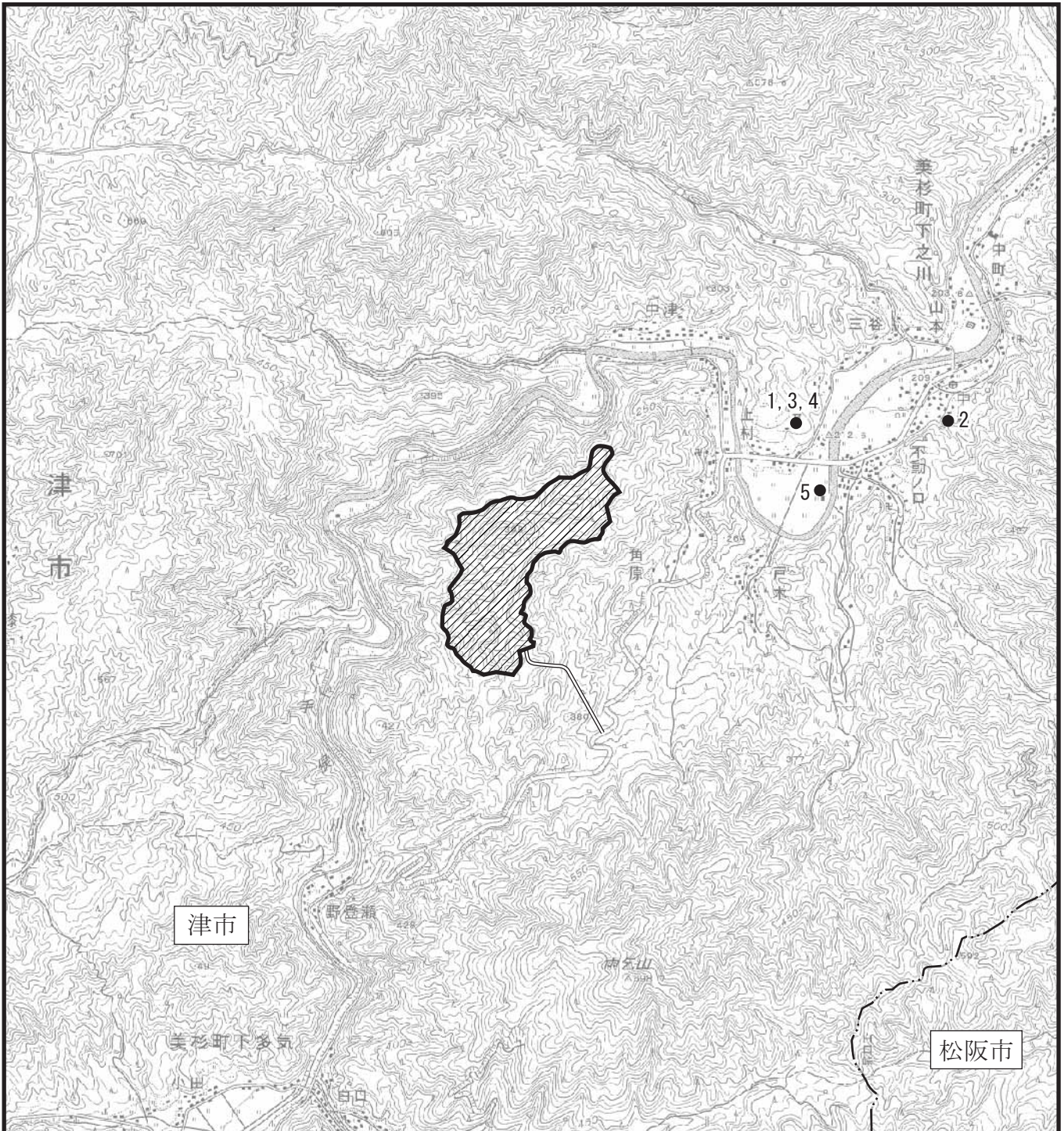




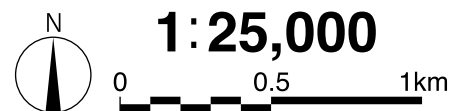


図3.1-16 対象事業実施区域周辺の指定文化財

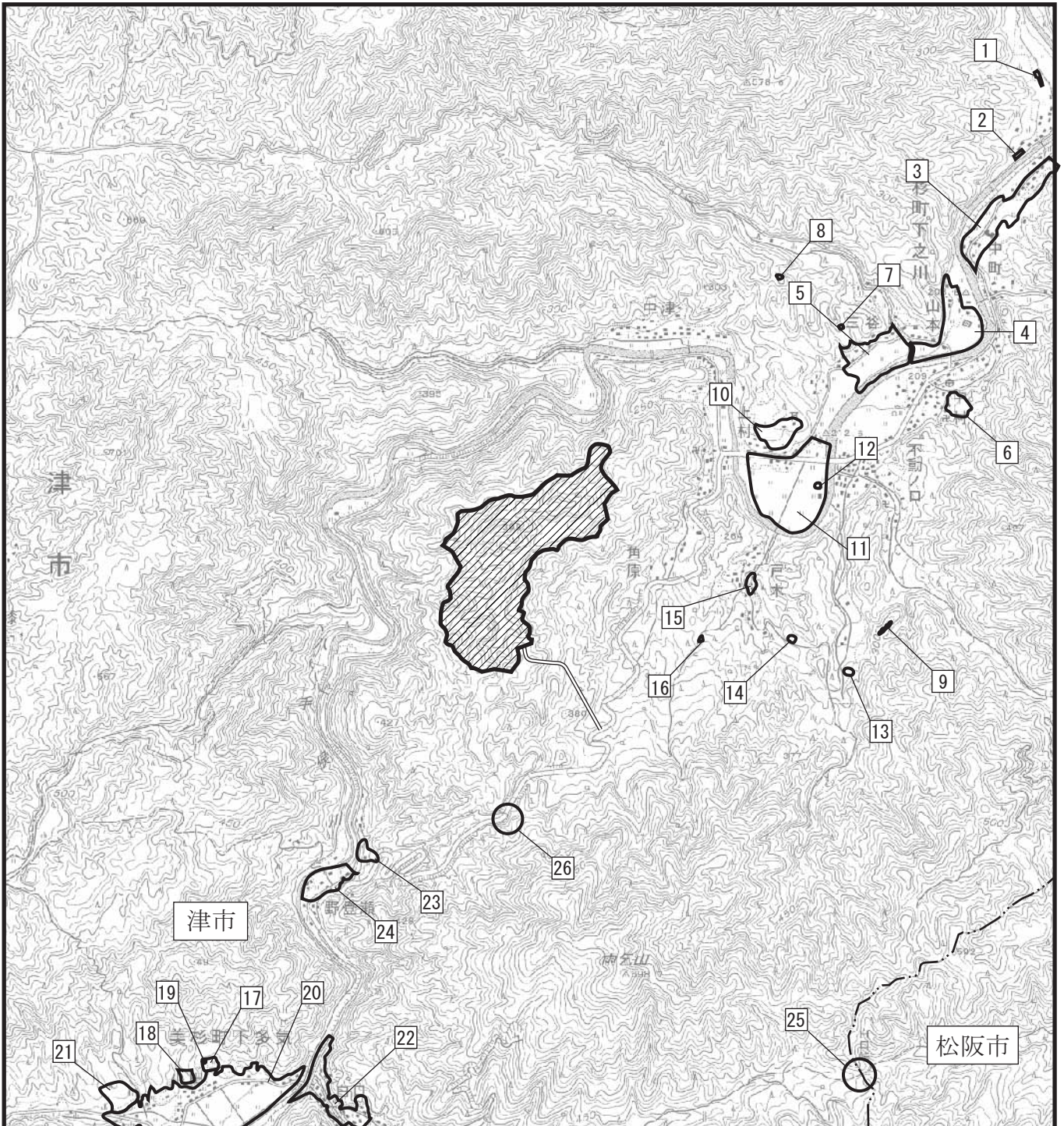
凡 例

-  : 対象事業実施区域
-  : 進入路
-  : 市 界
-  : 指定文化財



出典：「津市の文化財」（平成21年1月1日現在、津市ホームページ）





凡 例



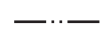

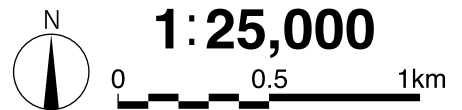
-  : 対象事業実施区域
-  : 進入路
-  : 市 界
-  : 埋蔵文化財包蔵地

図3.1-17 対象事業実施区域周辺の埋蔵文化財包蔵地



出典：「三重県一志郡 美杉村遺跡分布図」（平成8年3月、美杉村教育委員会）